

第12節 植物

事業実施区域及びその周辺には、重要な植物の生育環境が存在するため、工事の実施（工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、掘削工事、トンネル工事の実施）及び土地又は工作物の存在及び供用（道路（地表式、嵩上式及び地下式）の存在）に係る植物（重要な種及び群落）への影響が考えられることから、植物の環境影響の予測・評価を実施した。

12.1. 工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、掘削工事、トンネル工事の実施及び道路（地表式、嵩上式及び地下式）の存在に係る植物

(1) 調査

1) 調査の手法

① 調査した情報

(a) 植物相及び植生の状況

植物相及び植生の状況について調査しました。

(b) 重要な種及び群落の状況

重要な種及び群落の状況（重要な種・群落の生態、分布、生育の状況、生育環境の状況）について調査しました。

② 調査手法

調査は、既存資料調査及び現地調査により行いました。調査手法は以下のとおりです。

(a) 植物相及び植生の状況

植物相及び植生の状況の調査は、表 11-12-1 に示す現地調査により実施しました。

表 11-12-1 現地調査の手法

項目	調査手法	調査手法の解説
植物相	直接観察及び採集	調査地域内を踏査して、出現する種を目視により確認し、種名を記録した。なお、現地での同定が困難な種については、採集し持ち帰って同定を行った。また重要な種を確認したときは、確認位置及び生育状況等を記録した。
植物群落	植生調査	調査地域内の相観的な植物群落ごとに、一定の方形枠を1～数カ所設定して、枠内の植物種の出現状況（被度・群度）、階層構造、優占種等を記録し、植物群落を区分する方法、調査結果を基に現存植生図を作成した。

(b) 重要な種及び群落の状況

a) 重要な種及び群落の生態

重要な種及び群落の生態については、表 11-12-2 に示す図鑑、その他の資料の収集により整理しました。

表 11-12-2 既存資料一覧

文献名	発行年	発行元
環境省レッドデータブック 2014	2014年9月	環境省
レッドデータブックあいち 2020	2020年3月	愛知県
まもりたい静岡県の野生生物 2020 静岡県 レッドデータブック<植物・菌類編>	2020年	静岡県
「改定新版 日本の野生植物1 ソテツ科 ～カヤツリグサ科」(平凡社, 2015)	2015年	平凡社
「改定新版 日本の野生植物4 アオイ科 ～キョウチクトウ科」(平凡社, 2017)	2017年	平凡社
「改定新版 日本の野生植物5 ヒルガオ 科～スイカズラ科」(平凡社, 2017)	2017年	平凡社

b) 重要な種及び群落の分布、生育の状況及び生育環境の状況

重要な種及び群落の分布、生育の状況及び生育環境の状況については、表 11-12-3(1)～(2)及び表 11-12-4 に示す選定基準に該当する種及び群落について、「a) 植物の生育の状況」の調査と併せて行いました。

表 11-12-3(1) 重要な植物種の選定基準

番号	文献及び法律名等	選定基準となる区分
①	「文化財保護法」(昭和 25 年法律第 214 号)	国特：国指定特別天然記念物 国天：国指定天然記念物
②	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年法律第 75 号)	国際：国際希少野生動植物種 国内：国内希少野生動植物種 緊急：緊急指定種
③	「静岡県希少野生動植物保護条例」(平成 23 年 4 月 1 日静岡県条例第 37 号)に基づく指定希少野生動植物種	県指：指定希少野生動植物種
④	「自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例」(昭和 48 年愛知県条例第 3 号)	県指：指定希少野生動植物種
⑤	「環境省第 5 次レッドリスト(植物・菌類)」(令和 7 年 3 月 18 日、環境省報道発表資料)	EX：絶滅(我が国ではすでに絶滅したと考えられる種) EW：野生絶滅(飼育・栽培下あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ存続している種) CR：絶滅危惧 I A 類(深刻な絶滅の危機に瀕している種) EN：絶滅危惧 I B 類(絶滅の危機に瀕している種) VU：絶滅危惧 II 類(絶滅の危険が増大している種) NT：準絶滅危惧(存続基盤が脆弱な種) DD：情報不足(カテゴリーを判定するための情報が不足している種) LP：絶滅のおそれのある地域個体群(孤立した地域個体群で、絶滅のおそれが高いもの)
⑥	「レッドリストあいち 2025」(令和 7 年 3 月、愛知県)	EX：絶滅(愛知県ではすでに絶滅したと考えられる種) EW：野生絶滅(野生では絶滅し、飼育・栽培下でのみ存続している種) CR+EN：絶滅危惧 I 類(絶滅の危機に瀕している種) CR：絶滅危惧 I A 類(ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高い種) EN：絶滅危惧 I B 類(I A 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高い種) VU：絶滅危惧 II 類(絶滅の危険が増大している種) NT：準絶滅危惧(存続基盤が脆弱な種) DD：情報不足(「絶滅」「絶滅危惧」「準絶滅危惧」のいずれかに該当するのは確実と判断されるが、評価するだけの情報が不足している種)

表 11-12-3(2) 重要な植物種の選定基準

番号	文献及び法律名等	選定基準となる区分
⑦	「静岡県レッドリスト2020」（静岡県、令和2年3月）	EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧ⅠA類 EN：絶滅危惧ⅠB類 VU：絶滅危惧Ⅱ類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群 N-I：現状不明 N-II：分布上注目種等 N-III：部会注目種（干潟の絶滅危惧動物図鑑独自のカテゴリー）
⑧	「愛知県立自然公園条例」に基づき定められた「高山植物その他植物」「山岳に生息する動物その他動物」で知事が指定するもの（石巻山多米県立自然公園）（昭和43年3月29日愛知県条例第7号、改正：令和元年10月18日愛知県条例52号）	愛知：石巻山多米県立自然公園指定植物

表 11-12-4 重要な植物群落の選定基準

番号	文献及び法律名等	選定基準となる区分
⑨	「文化財保護法」(昭和25年法律第214号)	国特：国指定特別天然記念物 国天：国指定天然記念物
⑩	「第2回自然環境保全基礎調査日本の重要な植物群落の分布」(昭和57年、環境庁)	特定植物群落のうち以下の区分に該当するもの A：原生林もしくはそれに近い自然林 B：国内若干地域に分布するが、極めて稀な植物群落又は個体群 C：比較的普通に見られるものであっても、南限、北限、隔離分布等分布限界になる産地に見られる植物群落又は個体群 D：砂丘、断崖地、塩沼地、湖沼、河川、湿地、高山、石灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落又は個体群で、その群落の特徴が典型的なもの E：郷土景観を代表する植物群落で、特にその群落の特徴が典型的なもの F：過去において人工的に植栽されたことが明らかな森林であっても、長期にわたって伐採等の手が入っていないもの G：乱獲その他の人為の影響によって、当該都道府県内で極端に少なくなるおそれのある植物群落又は個体群 H：その他、学術上重要な植物群落又は個体群
⑪	「第4回自然環境保全基礎調査自然環境情報図」(平成7年、環境庁)、「第6回自然環境保全基礎調査巨樹・巨木林フォローアップ調査報告書」(平成元年3月、環境省自然環境局生物多様性センター)に掲載されている巨樹巨木	・○：巨樹巨木

③ 調査地域

調査地域は、事業実施区域及びその端部から100m程度の範囲としました。

調査地域を図11-12-1に示します。

④ 調査地点

調査地点及び調査ルートは、調査対象植物の生態的な特性、周辺の地形状況、植生の連続性を踏まえ、調査地域に生育する植物を効率よく把握できる場所を設定しました。

調査地点及び調査ルートは、図11-12-1に示します。

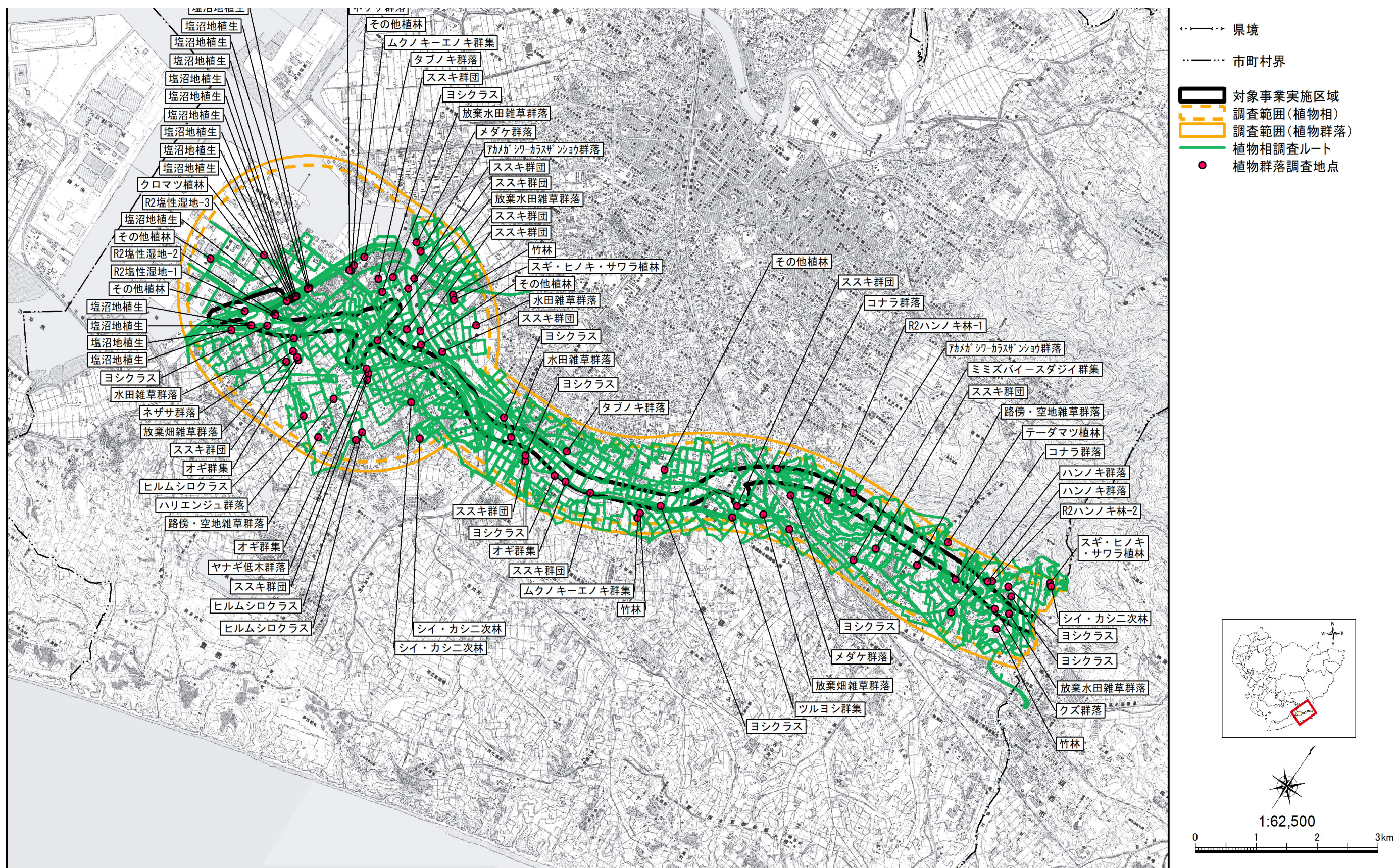


図 11-12-1 植物相・植物群落調査位置図

⑤ 調査期間及び調査時期

調査期間は、令和2年11月～令和7年3月までとしました。

調査時期等は、調査対象となる植物の生態的な特性を考慮し設定しました。

各項目の調査時期は、表 11-12-5 に示すとおりです。

表 11-12-5 調査時期

項目	調査手法	調査時期
植物相	直接観察及び採集	秋季：令和2年11月9～13日 早春季：令和3年3月8～10日 春季：令和3年4月29～30日、 5月6～7日、 5月10～11日 夏季：令和3年8月16～20日 初夏季：令和4年6月3日 夏季：令和4年9月2日 秋季：令和4年11月1日 春季：令和6年5月20～21日 夏季：令和6年8月26～28日 秋季：令和6年9月18～20日 早春季：令和7年3月10～11日
植物群落	植生調査	令和3年10月18～20日、10月25～27日 令和6年10月10～11日

2) 調査の結果

① 植物相及び植生の状況

現地調査結果の概要は、表 11-12-6(1)～(2)に示すとおりです。

表 11-12-6(1) 現地調査結果の概要（植物相）

項目	確認種数	重要な種
植物相	154 科 937 種	マツバラシ、イワタカンアオイ、トチカガミ、シバナ、ミカワバイケイソウ、キンラン、アキザキヤツシロラン、クロヤツシロラン、ウスギムヨウラン、コ克蘭、チャボイ、ヒメコヌカグサ、ヒメミソハギ、ウスゲチョウジタデ、ハマボウ、ハマサジ、ホソバハマアカザ、ハマアカザ、ハママツナ、ノジトラノオ、ナガボナツハゼ、カワヂシャ、タニジャコウソウ、スズメノハコベ、ウラギクの25種

表 11-12-6(2) 現地調査結果の概要（植物群落）

項目	群落数	現地調査で確認された群落分類
植物群落	30 群落	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1_ミミズバイースダジイ群集 ・ 2_タブノキ群落 ・ 3_ムクノキーエノキ群集 ・ 4_ハンノキ群落 ・ 5_ヤナギ低木群落 ・ 6_シイ・カシ二次林 ・ 7_コナラ群落 ・ 8_アカメガシワーカラスザンショウ群落 ・ 9_メダケ群落 ・ 10_ネザサ群落 ・ 11_クズ群落 ・ 12_ススキ群団 ・ 13_ヨシクラス ・ 14_ツルヨシ群集 ・ 15_オギ群集 ・ 16_ヒルムシロクラス ・ 17_塩沼地植生 ・ 18_スギ・ヒノキ・サワラ植林 ・ 19_クロマツ植林 ・ 20_テーダマツ植林 ・ 21_その他植林 ・ 22_ハリエンジュ群落 ・ 23_竹林 ・ 24_路傍・空地雑草群落 ・ 25_果樹園 ・ 26_畑雑草群落 ・ 27_水田雑草群落 ・ 28_放棄果樹園 ・ 29_放棄畑雑草群落 ・ 30_放棄水田雑草群落

注1) 凡例番号は、図 11-12-2 の凡例番号を示す。

(a) 植物相の状況

現地調査の結果、表 11-12-7(1)～(20)に示すとおり、154科 937種の植物が確認されました。

確認された植物は、スギナ、ワラビ、スダジイ、アラカシ、コナラ、ムクノキ、エノキ、ヤナギタデ、オオイヌタデ、ミゾソバ、ヤブニッケイ、タブノキ、ミミズバイ、イヌムギ、アイアシ、シオクグ等でした。

表 11-12-7(1) 植物相確認種一覧

No.	科名	種名	調査時期											重要な種	
			R2		R3			R4			R6				
			秋季	早春 季	春季	夏季	秋季	初夏 季	夏季	秋季	春季	夏季	秋季		早春 季
1	ヒカゲノカズラ科	トウゲシバ (広義)		○		○									
2	トクサ科	スギナ	○	○	○	○	○					○	○	○	○
3		トクサ		○		○									
4		イヌドクサ			○							○	○		
5	ハナヤスリ科	フユノハナワラビ		○											
6	マツバラ科	マツバラ	○												○
7	ゼンマイ科	ゼンマイ	○		○	○						○			
8	ウラボシ科	コシダ	○	○	○	○	○					○			
9		ウラボシ	○	○	○	○									
10	カニクサ科	カニクサ	○	○	○	○					○	○	○	○	
11	キジノオシダ科	オオキジノオ	○												
12		キジノオシダ	○	○											
13	ホングウシダ科	ホラシノブ	○	○	○	○					○			○	
14	コバノイシカグマ科	コバノイシカグマ	○		○										
15		イワヒメワラビ	○	○	○	○	○					○			
16		フモトシダ	○	○	○	○						○			
17		ワラビ	○	○	○	○	○					○	○	○	
18	イノモトソウ科	ヒメミズワラビ	○			○							○	○	
19		イワガネゼンマイ	○	○											
20		タチシノブ										○			
21		オオバノイノモトソウ	○			○									
22		イノモトソウ	○	○	○	○						○	○	○	○
23		アマクサシダ			○	○									
24	チャセンシダ科	トラノオシダ	○	○	○	○					○				
25		ヌリトラノオ	○	○		○									
26	ヒメシダ科	ヒメワラビ				○									
27		ミドリヒメワラビ			○										
28		ホシダ	○	○	○	○						○	○	○	○
29		コハシゴシダ	○	○	○							○			
30		イヌケホシダ										○	○		
31		ハシゴシダ	○	○		○									
32		ハリガネワラビ	○		○	○									
33		ヤワラシダ	○		○										
34		ヒメシダ									○				
35		ミゾシダ	○		○	○									
36	コウヤワラビ科	クサソテツ			○										
37	シシガシラ科	シシガシラ				○									

表 11-12-7(2) 植物相確認種一覧

No.	科名	種名	調査時期											重要な種	
			R2		R3			R4			R6				
			秋季	早春季	春季	夏季	秋季	初夏季	夏季	秋季	春季	夏季	秋季		早春季
38	メシダ科	イヌワラビ				○									
39		シケシダ	○		○	○						○		○	
40		ヘラシダ	○	○		○									
41		ミヤマノコギリシダ	○												
42		キョウタキシダ	○												
43		ノコギリシダ	○		○										
44	オンダ科	オオカナワラビ	○												
45		オニカナワラビ	○												
46		ホソバカナワラビ		○											
47		コバノカナワラビ			○										
48		リョウメンシダ	○	○	○							○			
49		オニヤブソテツ		○		○						○	○	○	○
50		ヤブソテツ	○	○	○	○	○					○	○		
51		テリハヤブソテツ	○	○	○	○						○	○		○
52		ヤマイタチシダ		○	○	○	○					○			
53		サイゴクベニシダ	○	○	○	○								○	
54		ベニシダ	○	○	○	○	○					○	○	○	○
55		マルバベニシダ				○									
56		オオイタチシダ	○	○		○						○	○		
57		オオベニシダ	○	○	○	○									
58		ギフベニシダ	○			○									
59		トウゴクシダ	○	○								○	○		
60		ヒメイタチシダ			○							○			
61		オクマワラビ	○	○	○	○						○	○		
62	イノデ	○	○	○	○						○	○			
63	タマシダ科	タマシダ				○									
64	ウラボシ科	マメツタ	○	○											
65		ノキシノブ	○	○	○	○					○				
66		ヒトツバ	○	○	○	○					○				
67	ソテツ科	ソテツ		○								○			
68	イチョウ科	イチョウ	○		○	○					○	○	○		
69	マツ科	モミ	○	○		○									
70		ヒマラヤスギ		○											
71		アカマツ	○	○	○	○	○							○	
72		テーダマツ	○	○		○	○								
73		クロマツ	○	○		○						○	○	○	
74		マキ科	イヌマキ	○	○	○	○	○				○	○	○	○
75	ヒノキ科	ヒノキ	○	○	○	○	○				○	○	○	○	
76		スギ	○	○	○	○	○					○	○	○	
77		カイヅカイブキ	○			○						○	○	○	○
78		オキアガリネズ	○	○	○	○									
79		メタセコイア											○		
80	イチイ科	イヌガヤ	○	○	○	○	○							○	
81	スイレン科	スイレン属の一種				○	○				○	○			
82	マツバサ科	シキミ	○	○		○	○								
83		サネカズラ	○	○	○		○				○	○	○	○	
84	センリョウ科	フタリシズカ				○									
85		センリョウ	○	○	○	○	○				○	○	○	○	
86	ドクダミ科	ドクダミ	○		○	○					○	○	○		

表 11-12-7(3) 植物相確認種一覧

No.	科名	種名	調査時期											重要な種	
			R2		R3			R4			R6				
			秋季	早春 季	春季	夏季	秋季	初夏 季	夏季	秋季	春季	夏季	秋季		早春 季
87	コショウ科	フウトウカズラ				○						○	○	○	
88	ウマノスズクサ科	ウマノスズクサ												○	
89		イワタカンアオイ	○	○	○										○
90	モクレン科	ハクモクレン				○									
91		タイサンボク				○									
92		コブシ		○		○									
93	クスノキ科	クスノキ	○	○	○	○	○					○	○	○	○
94		ニッケイ※1※6			○								○		
95		ヤブニッケイ	○	○	○	○	○					○	○	○	○
96		カナクギノキ			○										
97		ヤマコウバシ			○										
98		ダンコウバイ				○									
99		カゴノキ	○	○	○	○	○								
100		タブノキ	○	○	○	○	○					○	○	○	○
101		イヌガシ	○	○	○	○									
102		シロダモ	○	○	○	○	○					○	○	○	○
103	ショウブ科	ショウブ			○	○									
104		セキショウ	○	○		○									
105	サトイモ科	ウラシマソウ		○	○							○			
106		アオウキクサ				○						○		○	
107		カラスピシヤク			○							○			
108		ウキクサ				○							○		
109	オモダカ科	ウリカワ												○	
110		オモダカ				○									
111	トチカガミ科	オオカナダモ	○	○	○	○						○	○	○	○
112		コカナダモ												○	
113		トチカガミ												○	○
114		アマゾントチカガミ			○										
115	シバナ科	シバナ	○		○	○	○					○	○		○
116	ヒルムシロ科	エビモ												○	
117		ホソバミズヒキモ	○												
118		ヤナギモ	○												
119	ヤマノイモ科	ニガカシュウ	○			○							○	○	
120		タチドコロ	○		○										
121		ヤマノイモ	○		○	○	○					○	○	○	
122		ナガイモ			○	○						○			
123		オニドコロ	○		○	○	○						○	○	
124	シュロソウ科	ショウジョウバカマ		○											
125		ミカワバイケイソウ		○	○										○
126	イヌサフラン科	チゴユリ			○	○									
127	サルトリイバラ科	サルトリイバラ	○	○	○	○	○					○	○	○	
128		ヤマカシュウ				○									
129	ユリ科	バイモ		○											
130		シンテツポウユリ	○	○	○	○						○	○	○	
131		ササユリ※6			○										
132		オニユリ				○						○			
133	ラン科	シラン※2※6			○										
134		キンラン			○										○
135		シュンラン	○	○	○	○									

表 11-12-7(4) 植物相確認種一覧

No.	科名	種名	調査時期											重要な種		
			R2		R3			R4			R6					
			秋季	早春	春季	夏季	秋季	初夏	夏季	秋季	春季	夏季	秋季		早春	
136	ラン科	アキザキヤツシロラン								○			○		○	
137		クロヤツシロラン								○					○	
-		オノノヤガラ属※3※6	○													
138		ウスギムヨウラン	○	○	○			○							○	
139		コ克蘭	○	○	○	○						○			○	
140		オオバノトンボソウ			○											
141	アヤメ科	ヒメヒオウギズイセン	○	○	○	○					○	○	○	○		
142		シャガ		○	○											
143		キシヨウブ			○						○		○			
144		ニワゼキショウ			○						○	○				
145		オオニワゼキショウ			○	○					○					
146		セッカニワゼキショウ			○											
147	ススキノキ科	ノカンゾウ				○										
148		ヤブカンゾウ	○	○									○			
149	ヒガンバナ科	ラッキョウ	○													
150		ノビル	○	○	○						○			○		
151		ニラ											○			
152		ハナニラ		○		○										
153		ヒガンバナ	○	○			○							○		
154		スイセン		○											○	
155		ハタケニラ			○							○	○	○		
156		クサスギカズラ科	ハラン	○	○	○	○						○			
157	ツルボ		○	○									○			
158	ヤブラン		○	○	○	○	○					○	○	○	○	
159	コヤブラン											○	○	○		
160	ムスカリ			○												
161	ノシラン													○	○	
162	ジャノヒゲ		○	○	○		○					○	○	○	○	
163	ナガバジャノヒゲ		○	○	○	○	○					○	○	○	○	
164	オモト		○	○	○										○	
165	キミガヨラン												○			
166	ヤシ科	シュロ	○	○	○	○	○				○	○	○	○		
167	ツユクサ科	マルバツユクサ	○	○	○	○	○				○	○	○			
168		ツユクサ	○		○	○	○				○	○	○			
169		イボクサ	○			○					○		○			
170		ヤブミョウガ	○			○					○		○			
171		ノハカタカラクサ	○	○	○	○	○				○	○	○	○		
172		ミドリハカタカラクサ									○	○				
173	ミズアオイ科	コナギ	○			○							○			
174	バショウ科	バショウ				○										
175	ショウガ科	ミョウガ	○			○					○					
176	ガマ科	ヒメガマ	○		○	○	○				○	○	○			
177		ガマ	○	○		○	○				○	○	○	○		
178		コガマ				○						○	○			
179	ホシクサ科	ホシクサ	○										○			
180	イグサ科	ハナビゼキショウ			○											
181		ヒメコウガイゼキショウ									○					
182		イグサ	○	○	○	○	○				○		○			
183		コゴメイ	○	○	○	○						○		○		

表 11-12-7(5) 植物相確認種一覧

No.	科名	種名	調査時期											重要な種			
			R2		R3			R4			R6						
			秋季	早春 季	春季	夏季	秋季	初夏 季	夏季	秋季	春季	夏季	秋季		早春 季		
184	イグサ科	コウガイゼキショウ			○	○						○					
185		ホソイ				○						○					
186		クサイ			○	○						○	○	○			
187		スズメノヤリ		○	○							○					
188	カヤツリグサ科	コウキヤガラ										○					
189		シラスゲ										○	○				
190		クロカワズスゲ			○												
191		アゼナルコ			○								○				
192		カサスゲ							○								
193		マスクサ		○	○								○				
194		ジュズスゲ			○								○				
195		ナキリスゲ		○	○	○	○	○					○			○	
196		アオスゲ			○								○				
197		タチスゲ			○												
198		シオクグ		○		○	○	○					○	○	○	○	
199		タガネソウ		○		○											
200		アゼスゲ				○										○	
201		ヤワラスゲ											○				
202		モエギスゲ				○											
203		シュロガヤツリ		○		○	○										
204		チャガヤツリ		○			○										
205		アイダクグ					○										
206		ヒメクグ		○			○	○						○	○		
207		クグガヤツリ		○			○									○	
208		イヌクグ		○			○						○			○	
209		タマガヤツリ		○			○							○	○		
210		ホソミキンガヤツリ					○							○	○		
211		メリケンガヤツリ		○			○						○	○	○	○	
212		ヒナガヤツリ		○			○							○	○		
213		アゼガヤツリ		○										○	○		
214		コアゼガヤツリ		○											○		
215		コゴメガヤツリ		○			○	○						○	○		
216		カヤツリグサ		○			○							○	○		
217		アオガヤツリ					○							○			
218		ウシクグ												○			
219		イガガヤツリ		○			○							○	○		
220	ハマスゲ		○			○							○	○			
221	カワラスガナ		○										○	○			
222	ミスガヤツリ		○														
223	マツバイ		○														
224	チャボイ												○			○	
225	クログワイ												○		○		
226	ノテンツキ					○											
227	テンツキ					○							○	○			
228	クロテンツキ												○				
229	ヒデリコ		○			○							○	○			
230	ホタルイ					○											
231	イヌホタルイ		○			○							○	○			
232	アブラガヤ					○											

表 11-12-7(6) 植物相確認種一覧

No.	科名	種名	調査時期											重要な種	
			R2		R3			R4			R6				
			秋季	早春 季	春季	夏季	秋季	初夏 季	夏季	秋季	春季	夏季	秋季		早春 季
233	イネ科	ヤマスカボ			○						○				
234		ヌカボ			○						○				
235		ヒメコヌカグサ			○										○
236		ヌカススキ										○			
237		ハナヌカススキ										○			
238		スズメノテッポウ		○	○							○			
239		メリケンカルカヤ	○	○	○	○	○					○	○	○	○
240		コブナグサ	○			○	○						○	○	
241		トダシバ	○	○	○	○								○	
242		ダンチク										○	○	○	○
243		カラスムギ		○	○							○			
244		マカラスムギ										○			
245		ホウライチク	○												
246		カズノコグサ			○							○			
247		コバンソウ			○							○			
248		ヒメコバンソウ			○							○			
249		イヌムギ		○	○	○						○	○	○	○
250		スズメノチャヒキ			○							○			
251		カラスノチャヒキ			○										
252		ノガリヤス	○												
253		ヤマアワ	○			○	○						○	○	
254		オヒゲシバ	○										○	○	
255		ジュズダマ	○	○	○	○						○	○	○	
256		シロガネヨシ	○									○			
257		ギョウギシバ	○	○	○	○	○					○	○	○	○
258		カモガヤ			○							○		○	
259		メヒシバ	○			○	○						○	○	
260		コメヒシバ	○			○									
261		アキメヒシバ				○						○			
262		アブラススキ	○												
263		イヌビエ	○			○	○					○	○	○	
264	ケイヌビエ				○							○	○		
265	タイヌビエ	○				○						○	○		
266	オヒシバ	○	○		○							○	○		
267	アオカモジグサ			○	○						○				
268	カモジグサ			○	○						○	○			
269	シナダレスズメガヤ	○	○	○	○						○	○	○	○	
270	カゼクサ	○											○		
271	コスズメガヤ	○			○							○	○		
272	ニワホコリ				○							○	○		
273	チャボウシノシッペイ										○				
274	トボシガラ			○							○				
275	ムツオレグサ										○				
276	ハリノホ										○				
277	ウシノシッペイ	○			○										
278	チガヤ	○	○	○	○	○					○	○	○	○	
279	チゴザサ	○			○	○					○	○	○		
280	ハイチゴザサ	○													
281	アシカキ												○		

表 11-12-7(7) 植物相確認種一覧

No.	科名	種名	調査時期											重要な種			
			R2		R3			R4			R6						
			秋季	早春 季	春季	夏季	秋季	初夏 季	夏季	秋季	春季	夏季	秋季		早春 季		
282	イネ科	サヤヌカグサ					○										
283		ササガヤ	○				○										
284		アゼガヤ	○										○	○			
285		ネズミムギ		○	○			○					○				
286		ホソムギ			○								○				
287		ササクサ	○		○	○	○						○		○		
288		コメガヤ			○												
289		アシボソ	○				○	○					○	○	○		
290		トキワススキ					○										
291		オギ	○	○			○	○					○	○	○		
292		ススキ	○	○	○	○	○						○	○	○	○	
293		コチヂミザサ	○		○	○	○						○		○		
294		ケチヂミザサ	○		○	○							○	○	○		
295		イネ													○		
296		ヌカキビ	○	○				○							○		
297		オオクサキビ	○				○	○							○		
298		ニコゲヌカキビ												○			
299		シマスズメノヒエ	○				○						○	○	○		
300		キシウスズメノヒエ	○				○							○	○		
301		アメリカスズメノヒエ	○				○							○			
302		スズメノヒエ												○	○		
303		タチスズメノヒエ	○	○			○	○						○	○	○	
304		チカラシバ	○														
305		アイアシ	○				○	○					○	○	○		
306		クサヨシ					○	○					○				
307		オオアワガエリ				○											
308		ヨシ	○	○	○	○	○						○	○	○	○	
309		ツルヨシ			○	○	○										
310		セイタカヨシ	○	○	○	○	○						○	○	○		
311		ホテイチク	○														
312		モウソウチク	○	○	○	○	○						○	○	○	○	
313		ハチク	○	○	○	○	○						○	○	○	○	
314		クロチク			○												
315	マダケ	○	○	○	○							○	○	○			
316	ネザサ	○	○	○	○	○						○	○	○	○		
317	ケネザサ	○										○		○			
318	メダケ	○	○	○	○	○						○	○	○	○		
319	ミゾイチゴツナギ											○					
320	スズメノカタビラ		○	○								○			○		
321	ツルスズメノカタビラ		○	○								○			○		
322	オオイチゴツナギ			○													
323	ナガハグサ			○													
324	イチゴツナギ		○	○								○					
325	オオスズメノカタビラ			○								○					
326	ヒエガエリ											○					
327	ワセオバナ					○							○				
328	ハイヌメリグサ													○			
329	ヌメリグサ	○															
330	ミヤコザサ													○			

表 11-12-7(8) 植物相確認種一覧

No.	科名	種名	調査時期											重要な種	
			R2		R3			R4			R6				
			秋季	早春 季	春季	夏季	秋季	初夏 季	夏季	秋季	春季	夏季	秋季		早春 季
331	イネ科	クマザサ	○												
332		オニウシノケグサ			○						○		○		
333		アキノエノコログサ	○			○	○					○	○		
334		コツブキンエノコロ	○			○						○	○		
335		キンエノコロ	○			○	○					○	○		
336		エノコログサ	○			○	○					○	○		
337		オカメザサ	○		○										
338		セイバンモロコシ	○	○		○	○					○	○	○	○
339		ネズミノオ	○		○	○						○	○		
340		メガルカヤ	○			○									
341		カニツリグサ			○							○			
342		ナギナタガヤ		○	○							○			
343		マコモ	○			○						○	○	○	
344		シバ	○		○	○						○	○		
345		コウライシバ										○			
346	ケシ科	ムラサキケマン		○	○										
347		ミヤマキケマン		○											
348		ナガミヒナゲシ			○							○			
349	アケビ科	アケビ	○	○	○	○	○				○	○	○	○	
350		ミツバアケビ	○	○	○	○	○				○		○		
351		ムベ	○	○	○	○	○				○	○	○	○	
352	ツツラフジ科	アオツツラフジ	○		○	○	○				○	○	○		
353	メギ科	ヒイラギナンテン	○	○	○										
354		メギ	○		○	○									
355		ナンテン	○	○	○	○	○				○	○	○	○	
356	キンボウゲ科	ボタンヅル	○	○	○	○									
357		センニンソウ	○	○	○	○	○				○	○	○		
358		キクザキリュウキンカ		○											○
359		ケキツネノボタン		○	○	○	○				○				
360		ウマノアシガタ		○	○										
361		タガラシ		○	○						○				○
362		キツネノボタン	○			○					○	○	○		
363		ヒメウズ	○	○	○						○				
364	ハス科	ハス											○		
365	フウ科	フウ										○			
366		モミジバフウ				○									
367	マンサク科	イスノキ	○		○	○	○				○	○	○	○	
368	カツラ科	カツラ				○									
369	ユズリハ科	ヒメユズリハ	○	○	○	○	○				○	○	○	○	
370	ユキノシタ科	チダケサシ									○				
371		ネコノメソウ		○											
372		ヤマネコノメソウ			○										
373		ユキノシタ		○	○							○			○
374	ベンケイソウ科	コモチマンネングサ	○	○	○						○			○	
375		タイトゴメ	○		○						○	○	○		
376		オノマンネングサ									○				
377		メキシコマンネングサ			○						○				
378		ツルマンネングサ	○	○	○	○							○		

表 11-12-7(9) 植物相確認種一覧

No.	科名	種名	調査時期											重要な種	
			R2		R3			R4			R6				
			秋季	早春 季	春季	夏季	秋季	初夏 季	夏季	秋季	春季	夏季	秋季		早春 季
379	アリノトウグサ科	オオフサモ	○								○			○	
380		フサモ属※4				○				○					
381	ブドウ科	ノブドウ	○		○	○	○				○	○	○		
382		ヤブカラシ	○	○	○	○	○				○	○	○		
383		ツタ	○		○	○	○				○	○	○		
384		エビヅル	○		○	○					○	○	○		
385		ケサンカクヅル				○									
386		アマヅル	○		○										
387		マメ科	クサネム	○		○	○					○	○	○	
388	ネムノキ		○			○	○				○	○			
389	フサアカシア		○		○	○									
390	イタチハギ		○		○	○	○				○	○	○		
391	ヤブマメ		○		○	○	○				○	○	○		
392	ホドイモ													○	
393	ゲンゲ			○	○										
394	アレチヌスビトハギ		○		○	○					○	○	○		
395	ノササゲ				○										
396	ノアズキ		○			○						○	○		
397	ツルマメ					○	○				○	○	○		
398	ヤブハギ					○									
399	トウコマツナギ													○	
400	コマツナギ		○			○					○	○	○	○	
401	ヤハズソウ					○	○					○	○		
402	ハマエンドウ				○						○				
403	ヤマハギ		○			○									
404	メドハギ		○	○	○	○					○	○	○	○	
405	マルバハギ		○				○								
406	ネコハギ		○		○	○								○	
407	セイヨウミヤコグサ										○				
408	コメツブウマゴヤシ										○				
409	ウマゴヤシ			○	○						○			○	
410	クズ		○	○	○	○	○				○	○	○	○	
411	タンキリマメ		○								○	○	○		
412	ハリエンジュ		○		○	○					○	○	○		
413	エビスグサ		○												
414	クララ									○	○				
415	クスダマツメクサ									○					
416	コメツブツメクサ		○	○	○					○		○			
417	ムラサキツメクサ	○	○	○	○	○				○	○	○			
418	シロツメクサ	○	○	○	○	○				○	○	○	○		
419	スズメノエンドウ		○	○						○					
420	ヤハズエンドウ	○	○	○						○			○		
421	カスマグサ			○						○					
422	ナヨクサフジ			○						○					
423	ヤブツルアズキ					○							○		
424	フジ	○	○	○	○	○				○	○	○			
425	ナツフジ	○		○	○	○				○	○	○			

表 11-12-7(10) 植物相確認種一覧

No.	科名	種名	調査時期												重要な種
			R2		R3			R4			R6				
			秋季	早春 季	春季	夏季	秋季	初夏 季	夏季	秋季	春季	夏季	秋季	早春 季	
426	グミ科	ツルグミ	○	○	○	○	○				○	○	○		
427		オオバグミ	○	○	○	○	○				○	○	○	○	
428		ナワシログミ										○			
429		アキグミ	○	○	○						○	○	○		
430	クロウメモドキ科	イソノキ	○		○	○									
431	ニレ科	アキニレ	○			○					○	○	○		
432		ケヤキ	○	○	○	○	○				○	○	○		
433	アサ科	ムクノキ	○	○	○	○	○				○	○	○	○	
434		エノキ	○	○	○	○	○				○	○	○	○	
435		カナムグラ	○		○	○	○				○	○	○		
436	クワ科	ヒメコウゾ	○			○									
437		クワクサ	○			○						○	○		
438		イヌビワ	○	○	○	○	○				○	○	○	○	
439		ホソバイヌビワ			○	○					○		○		
440		イタビカズラ	○	○	○						○			○	
441		マグラ	○		○	○					○	○	○		
442		ヤマグラ			○						○				
443		イラクサ科	ヤブマオ	○		○	○					○	○	○	
444	カラムシ		○		○	○					○	○	○		
445	ナンバンカラムシ					○					○	○	○		
446	メヤブマオ		○			○	○								
447	ナガバヤブマオ		○			○	○								
448	ミズ		○												
449	アオミズ		○			○									
450	バラ科	キンミズヒキ	○		○	○									
451		アズキナシ			○	○	○								
452		ウラジロノキ			○										
453		ヤマザクラ	○		○	○	○				○	○			
454		ソメイヨシノ	○		○	○	○				○		○		
455		ビワ	○	○	○	○	○				○	○	○	○	
456		ヤマブキ					○								
457		リンボク		○											
458		イヌザクラ	○												
459		カナメモチ	○	○	○										
460		オヘイイチゴ	○		○	○						○			
461		ヘビイチゴ		○	○	○	○						○		
462		ヤブヘビイチゴ	○	○	○	○	○				○	○		○	
463		オキジムシロ									○				
464		カマツカ	○		○	○									
465		タチバナモドキ	○		○						○	○		○	
466		トキワサンザシ	○									○			
467		シャリンバイ	○	○	○	○	○				○	○	○	○	
468		テリハノイバラ	○		○	○	○				○	○	○		
469		ノイバラ	○	○	○	○	○				○	○	○	○	
470		フユイチゴ	○	○	○	○								○	
471		クサイイチゴ	○	○	○	○					○				
472		ニガイイチゴ	○	○		○									
473		ナワシロイチゴ	○	○	○	○	○				○	○	○	○	

表 11-12-7(11) 植物相確認種一覧

No.	科名	種名	調査時期											重要な種	
			R2		R3			R4			R6				
			秋季	早春 季	春季	夏季	秋季	初夏 季	夏季	秋季	春季	夏季	秋季		早春 季
474	バラ科	コジキイチゴ	○		○										
475		カジイチゴ	○		○								○		
476		ワレモコウ	○			○						○	○	○	
477		ユキヤナギ		○	○	○									
478	ブナ科	クリ	○	○	○	○	○					○			
479		ツブラジイ		○		○							○		
480		スダジイ	○	○	○	○	○					○	○	○	○
481		マテバシイ	○	○	○	○	○					○	○	○	○
482		クヌギ	○		○							○		○	
483		カシワ												○	
484		アラカシ	○	○	○	○	○					○	○	○	○
485		シラカシ	○	○		○						○	○	○	○
486		ウバメガシ	○	○	○	○						○		○	○
487		ウラジロガシ											○		○
488		コナラ	○	○	○	○	○					○	○	○	
489		ツクバネガシ					○					○			
490		アベマキ	○	○	○	○	○								
491	ヤマモモ科	ヤマモモ	○	○	○	○	○				○	○	○	○	
492	クルミ科	オニグルミ	○		○	○					○				
493	カバノキ科	ヤシャブシ	○												
494		ハンノキ	○	○	○	○	○								
495		オオバヤシャブシ	○		○	○									
496	ウリ科	アマチャヅル	○	○	○	○	○					○		○	
497		アレチウリ	○			○						○			
498		カラスウリ	○			○	○						○	○	
499		キカラスウリ	○									○	○	○	○
500		スズメウリ	○				○						○	○	
501	ニシキギ科	ツルウメモドキ	○		○	○	○					○	○	○	
502		ニシキギ										○			
503		コマユミ	○		○	○									
504		マサキ	○	○	○	○	○					○	○	○	○
505	カタバミ科	イモカタバミ	○	○	○										
506		ハナカタバミ	○												
507		カタバミ	○	○	○	○	○					○	○	○	○
508		ムラサキカタバミ		○	○	○						○		○	○
509		オッタチカタバミ	○	○	○	○						○	○	○	○
510		オオキバナカタバミ		○											○
511		フヨウカタバミ	○	○	○									○	○
512	ホルトノキ科	ホルトノキ※5※6				○						○	○	○	○
513	トウダイグサ科	エノキグサ	○		○	○						○	○	○	○
514		ショウジョウソウ				○									
515		トウダイグサ		○	○										○
516		シマニシキソウ	○			○							○	○	
517		コニシキソウ	○	○		○							○	○	
518		オオニシキソウ	○			○	○					○	○	○	
519		ハイニシキソウ	○		○	○						○	○	○	
520		アレチニシキソウ										○	○	○	
521		アカメガシワ	○	○	○	○	○					○	○	○	○
522		ナンキンハゼ	○		○	○						○	○	○	

表 11-12-7(12) 植物相確認種一覧

No.	科名	種名	調査時期											重要な種	
			R2		R3			R4			R6				
			秋季	早春 季	春季	夏季	秋季	初夏 季	夏季	秋季	春季	夏季	秋季		早春 季
523	コミカンソウ科	キダチコミカンソウ				○								○	
524		コミカンソウ				○								○	
525		ナガエコミカンソウ	○												
526		ヒメミカンソウ				○									
527	ミゾハコベ科	ミゾハコベ	○											○	
528	ヤナギ科	シダレヤナギ										○			
529		マルバヤナギ	○		○	○	○					○	○		
530		ジャヤナギ												○	
531		ネコヤナギ	○												
532		オオタチヤナギ												○	
533		タチヤナギ	○			○						○			
534	スマレ科	タチツボスマレ		○	○	○									
535		ヒメスマレ		○										○	
536		スマレ		○											
537		ニオイタチツボスマレ		○											
538		ツボスマレ			○										
539		マキノスマレ		○	○										
540	オトギリソウ科	オトギリソウ				○									
541		キンシバイ				○									
542	フウロソウ科	オランダフウロ	○												
543		アメリカフウロ	○	○	○	○					○			○	
544		ゲンノショウコ		○											
545	ミソハギ科	ホツバヒメミソハギ	○			○	○						○	○	
546		ヒメミソハギ												○	○
547		サルスベリ				○							○		
548		ミソハギ				○							○		
549		ザクロ				○									
550		キカシグサ	○			○								○	
551		ヒシ			○	○						○	○	○	
552		アカバナ科	アカバナ			○									
553	ヒレタゴボウ		○			○	○						○	○	
554	チョウジタデ		○			○							○		
555	ウスゲチョウジタデ													○	○
556	メマツヨイグサ		○	○	○	○						○	○	○	○
557	コマツヨイグサ		○	○	○	○						○	○	○	○
558	ユウゲショウ		○		○	○						○	○	○	
559	ヒルザキツキミソウ				○	○						○			
560	マツヨイグサ	○		○	○						○		○		
561	ミツバウツギ科	ゴンズイ	○		○	○	○				○		○		
562	ウルシ科	ヌルデ	○		○	○	○				○	○	○		
563		ハゼノキ	○		○	○	○				○	○	○		
564		ヤマハゼ	○		○	○	○				○	○	○		
565		ヤマウルシ	○		○	○	○				○		○		
566	ムクロジ科	トウカエデ			○	○					○	○	○		
567		イロハモミジ	○	○	○	○	○						○		
568		イタヤカエデ (広義)	○												
569		フウセンカズラ	○			○									
570		ムクロジ										○			

表 11-12-7(13) 植物相確認種一覧

No.	科名	種名	調査時期											重要な種	
			R2		R3			R4			R6				
			秋季	早春 季	春季	夏季	秋季	初夏 季	夏季	秋季	春季	夏季	秋季		早春 季
571	ミカン科	ミヤマシキミ			○										
572		カラスザンショウ	○	○	○	○	○					○		○	
573		フユザンショウ	○												
574		サンショウ			○	○									
575		イヌザンショウ	○		○										
576	ニガキ科	ニワウルシ	○			○						○		○	
577	センダン科	センダン	○	○	○	○	○					○	○	○	
578	アオイ科	イチビ				○								○	
579		カラスノゴマ	○			○									
580		アオギリ	○		○	○						○	○		
581		ハマボウ	○			○						○	○		○
582		フヨウ	○			○								○	
583		ムクゲ			○	○									
584		ウサギアオイ			○							○	○		○
585		キクノハアオイ			○										
586		ヤノネボンテンカ				○							○		
587		キンゴジカ				○						○	○	○	
588		アメリカキンゴジカ	○			○							○	○	
589	フウチョウソウ科	セイヨウフウチョウソウ											○		
590	アブラナ科	シロイヌナズナ													○
591		カラシナ		○	○			○				○		○	
592		セイヨウアブラナ		○	○							○			○
593		ナズナ	○	○	○							○			○
594		ミチタネツケバナ		○											
595		タネツケバナ	○	○	○			○				○		○	○
596		オオバタネツケバナ	○		○										
597		カラクサナズナ										○			
598		マメゲンバイナズナ	○	○	○	○						○	○	○	○
599		オランダガラシ		○	○							○			
600		ショカツサイ			○										
601		セイヨウノダイコン		○											
602		ハマダイコン	○	○	○			○				○			○
603		イヌガラシ	○	○	○	○								○	○
604		スカシタゴボウ	○	○	○	○						○	○	○	
605		ゲンバイナズナ	○												
606	ビャクダン科	カナビキソウ	○		○	○								○	
607		ヤドリギ		○											
608	イソマツ科	ハマサジ	○		○	○	○		○			○	○		○
609	タデ科	シャクチリソバ	○		○		○								
610		イタドリ	○	○	○	○	○					○	○	○	
611		ヒメツルソバ	○	○	○	○						○	○	○	○
612		ミズヒキ	○		○	○	○					○		○	
613		ヤナギタデ	○			○	○					○	○	○	
614		シロバナサクラタデ				○							○	○	
615		サナエタデ										○			
616		オオイヌタデ	○			○	○					○	○	○	
617		イヌタデ	○		○	○	○						○	○	

表 11-12-7(14) 植物相確認種一覧

No.	科名	種名	調査時期											重要な種	
			R2		R3			R4			R6				
			秋季	早春季	春季	夏季	秋季	初夏 季	夏季	秋季	春季	夏季	秋季		早春季
618	タデ科	ヤネグサ				○	○							○	
619		シンミズヒキ				○						○			
620		サクラタデ	○											○	
621		イシミカワ	○			○						○			
622		ボントクタデ	○		○	○									
623		アキノウナギツカミ					○					○			
624		ママコノシリヌグイ				○						○	○	○	
625		ミゾソバ	○	○	○	○	○					○	○	○	
626		ミチヤナギ	○			○						○	○	○	
627		アキノミチヤナギ	○			○	○						○	○	
628		スイバ	○	○	○	○	○					○		○	○
629		アレチギシギシ			○	○						○	○		
630		ナガバギシギシ			○							○		○	
631		ギンギシ	○		○	○	○					○	○	○	
632		ナデシコ科	ノミノツツリ			○						○			
633	オランダミミナグサ		○	○	○							○			○
634	ハマナデシコ		○		○	○									
635	カララナデシコ		○			○						○	○		
636	イヌコモチナデシコ				○										
637	ツメクサ			○	○							○	○		○
638	シロバナマンテマ		○		○							○			
639	マンテマ			○	○							○			
640	ノハラツメクサ		○	○								○			
641	オオツメクサ		○	○	○							○		○	○
642	ウシオハナツメクサ				○							○			
643	ウシハコベ		○	○	○										
644	コハコベ		○	○	○							○			○
645	ミドリハコベ		○	○	○	○						○			○
646	ノミノフスマ		○	○	○							○			
647	ヒユ科	イノコヅチ	○		○	○	○				○	○	○		
648		ヒナタイノコヅチ	○			○	○					○	○	○	
649		ホソバツルノゲイトウ										○	○		
650		ツルノゲイトウ	○									○	○		
651		イヌビユ				○									
652		ホソアオゲイトウ	○			○						○	○		
653		ホナガイヌビユ	○			○						○	○	○	
654		ホソバハマアカザ				○	○		○			○	○		○
655		ホコガタアカザ	○									○	○	○	
656		ハマアカザ										○	○		○
657		ノゲイトウ										○	○		
658		ケイトウ	○												
659		シロザ	○		○	○						○		○	
660		アカザ			○										
661		ユアカザ			○							○			
662		アリタソウ	○			○	○					○	○		
663		ゴウシュウアリタソウ										○			
664		ハマツナ	○			○						○			○

表 11-12-7(15) 植物相確認種一覧

No.	科名	種名	調査時期											重要な種	
			R2		R3			R4			R6				
			秋季	早春 季	春季	夏季	秋季	初夏 季	夏季	秋季	春季	夏季	秋季		早春 季
665	ハマミズナ科	ツルナ	○		○	○					○	○	○		
666	ヤマゴボウ科	ヨウシュヤマゴボウ	○		○	○					○	○	○		
667	オシロイバナ科	オシロイバナ	○			○	○				○	○	○		
668	ザクロソウ科	クマバザクロソウ										○	○		
669		ザクロソウ	○		○	○						○	○		
670	ハゼラン科	ハゼラン	○			○						○	○		
671	スベリヒユ科	マツバボタン		○											
672		スベリヒユ	○			○						○	○		
673		ヒメマツバボタン		○	○	○							○		
674	ミズキ科	ウリノキ	○												
675		ヤマボウシ				○									
676		クマノミズキ	○												
677	アジサイ科	ウツギ	○		○	○						○			
678		マルバウツギ	○												
679		ノリウツギ				○									
680	サカキ科	サカキ	○	○	○	○	○						○		
681		ハマヒサカキ	○	○	○	○	○				○	○	○	○	
682		ヒサカキ	○	○	○	○	○				○	○	○	○	
683		モッコク		○	○	○	○						○		
684	カキノキ科	カキノキ	○		○	○					○	○			
685	サクラソウ科	マンリョウ	○	○	○	○	○				○	○	○	○	
686		ヤブコウジ	○	○	○	○	○				○	○			
687		ツルコウジ									○				
688		ノジトラノオ						○							○
689		オカトラノオ			○										
690		ヌマトラノオ									○		○		
691		コナスビ	○		○	○					○		○		
692		イズセンリョウ	○	○											
693	ツバキ科	ヤブツバキ	○	○	○	○	○				○	○	○	○	
694		サザンカ	○	○	○	○	○					○		○	
695		チャノキ	○	○		○						○	○		
696	ハイノキ科	ミミズバイ	○	○	○	○	○				○		○		
697		クロバイ	○	○	○	○	○								
698		サワフタギ	○		○		○								
699	エゴノキ科	エゴノキ	○		○	○	○								
700	マタタビ科	キウイフルーツ			○										
701	リョウブ科	リョウブ	○	○	○	○									
702	ツツジ科	ネジキ	○	○	○	○	○								
703		ミツバツツジ		○											
704		ヤマツツジ	○		○										
705		モチツツジ	○	○	○	○									
706		コバノミツバツツジ			○										
707		ツツジ (園芸品種)	○		○	○									
708		シャシャンボ	○	○	○	○					○				
709		ウスノキ	○		○										
710	ナツハゼ			○	○										
711	ナガボナツハゼ			○	○									○	
712	アオキ科	アオキ	○	○	○	○	○				○	○	○	○	

表 11-12-7(16) 植物相確認種一覧

No.	科名	種名	調査時期											重要な種		
			R2		R3			R4			R6					
			秋季	早春 季	春季	夏季	秋季	初夏 季	夏季	秋季	春季	夏季	秋季		早春 季	
713	アカネ科	アリドオシ	○	○	○	○	○									
714		メリケンムグラ										○				
715		ヤエムグラ		○	○						○			○		
716		ヨツバムグラ			○											
717		カワラマツバ											○			
718		クチナシ	○	○	○	○	○				○		○			
719		オオフタムグラ										○				
720		ツルアリドオシ	○													
721		ハシカグサ	○													
722		フタムグラ	○			○						○	○			
723		ヘクソカズラ	○		○	○	○				○	○	○			
724		キョウチクトウ科	ガガイモ	○		○	○	○				○	○	○		
725			キョウチクトウ	○	○								○	○		
726			テイカカズラ	○	○	○	○	○				○	○	○	○	
727	ツルニチニチソウ		○	○	○	○					○	○		○		
728	ヒルガオ科	コヒルガオ			○	○					○	○	○			
729		ヒルガオ			○	○					○	○	○			
730		ハマヒルガオ	○								○		○			
731		アメリカネナシカズラ									○	○				
732		カロリナアオイゴケ	○	○	○	○					○		○			
733		マルバルコウ	○			○						○	○			
734		アメリカアサガオ	○									○	○			
735		マルバアメリカアサガオ	○			○	○						○			
736		マメアサガオ	○									○	○			
737		アサガオ				○						○	○			
738		マルバアサガオ										○	○			
739		ホシアサガオ	○									○	○			
740	ナス科	クコ	○	○	○	○	○				○	○	○	○		
741		ヒロハフウリンホオズキ	○				○					○	○			
742		テリミノイヌホオズキ										○				
743		ワルナスビ	○			○					○	○	○			
744		ヒヨドリジョウゴ	○			○										
745		イヌホオズキ	○	○	○	○										
746		アメリカイヌホオズキ	○	○	○	○					○	○	○			
747		ムラサキ科	ハナイバナ	○		○	○					○				
748	キュウリグサ		○	○	○						○	○		○		
749	モクセイ科	レンギョウ		○												
750		シナレンギョウ										○				
751		シマトネリコ										○	○	○		
752		マルバアオダモ	○		○	○	○									
753		ネズミモチ	○	○	○	○	○						○	○		
754		トウネズミモチ	○	○	○	○	○				○	○	○	○		
755		イボタノキ	○	○	○	○	○						○			
756		オオバイボタ										○				
757		キンモクセイ	○	○	○	○										
758		ヒイラギ	○	○	○	○	○						○	○		

表 11-12-7(17) 植物相確認種一覧

No.	科名	種名	調査時期											重要な種	
			R2		R3			R4			R6				
			秋季	早春 季	春季	夏季	秋季	初夏 季	夏季	秋季	春季	夏季	秋季		早春 季
759	オオバコ科	アワゴケ	○												
760		ミズハコベ	○		○	○					○				
761		ツタバウンラン	○	○											
762		シソクサ											○		
763		キクモ											○		
764		マツバウンラン			○						○			○	
765		オオバコ	○	○	○	○	○				○	○	○	○	
766		ヘラオオバコ	○	○	○	○					○	○	○	○	
767		ツボミオオバコ		○	○	○					○				
768		タチヌノフグリ		○	○						○			○	
769		フラサバソウ		○										○	
770		ムシクサ			○						○				
771		オオイヌノフグリ	○	○	○						○			○	
772		カワヂシャ		○	○					○				○	○
773	アゼナ科	エダチスズメノトウガラン											○		
774		アメリカアゼナ	○			○							○		
775		アゼナ				○				○			○		
776		タケトアゼナ									○	○			
777		ウリクサ	○			○						○	○		
778	シソ科	キランソウ			○										
779		セイヨウジュウニヒトエ			○										
780		コムラサキ	○			○								○	
781		ムラサキシキブ	○		○	○								○	
782		ヤブムラサキ	○		○	○									
783		タニジャコウソウ	○												○
784		クサギ	○		○	○	○				○	○	○		
785		クルマバナ			○										
786		トウバナ		○	○	○					○				
787		カキドオシ	○	○	○							○			
788		ホトケノザ	○	○	○						○			○	
789		ヒメオドリコソウ		○	○									○	
790		メハジキ	○			○					○	○	○		
791		マルバハッカ				○						○			
792		ヒメジソ	○			○						○	○		
793		イヌコウジュ	○										○		
794		シソ										○			
795		エゴマ	○												
796		コバナタツナミ			○										
797		ヤブチョロギ	○	○										○	
798		ハマゴウ												○	
799	サギゴケ科	ムラサキシキブ	○	○	○						○		○		
800		トキワハゼ	○	○	○	○					○		○		
801	ハエドクソウ科	スズメノハコベ	○							○			○	○	
802		ナガバハエドクソウ									○				
803	キリ科	キリ	○		○	○									
804	ハマウツボ科	ヤセウツボ									○				
805	キツネノマゴ科	オギノツメ	○			○						○			
806		キツネノマゴ	○			○						○	○		

表 11-12-7(18) 植物相確認種一覧

No.	科名	種名	調査時期											重要な種	
			R2		R3			R4			R6				
			秋季	早春 季	春季	夏季	秋季	初夏 季	夏季	秋季	春季	夏季	秋季		早春 季
807	ノウゼンカズラ科	ノウゼンカズラ	○	○		○						○		○	
808		キササゲ			○										
809	クマツヅラ科	シチヘンゲ	○		○	○						○	○	○	○
810		ヒメイワダレソウ										○			
811		ヤナギハナガサ	○			○						○			
812		アレチハナガサ	○	○	○	○	○					○	○	○	○
813		ダキバアレチハナガサ										○			
814		ハマクマツヅラ	○			○						○		○	
815		シュッコンパーベナ	○	○		○						○	○		
816	モチノキ科	イヌツゲ	○	○		○							○		
817		モチノキ	○	○	○	○	○					○	○	○	○
818		タラヨウ				○									
819		アオハダ	○		○	○	○								
820		ソヨゴ	○	○	○	○	○								
821		クロガネモチ	○	○	○	○						○	○	○	○
822		ウメモドキ	○												
823	キキョウ科	ツリガネニンジン	○			○						○	○	○	
824		ミゾカクシ				○								○	
825		タニギキョウ	○												
826		ヒナギキョウソウ			○							○			
827		ヒナギキョウ			○							○		○	○
828	キク科	ヌマダイコン	○			○									
829		ブタクサ				○						○			
830		オオブタクサ			○	○						○	○	○	
831		カワラヨモギ	○			○						○			○
832		ヨモギ	○	○	○	○	○					○	○	○	○
833		オトコヨモギ			○							○			
834		イヌヨモギ										○			
835		シロヨメナ	○												
836		ノコンギク	○											○	
837		シュウブソウ	○			○									
838		ヨメナ	○												
839		アメリカセンダングサ	○	○	○	○	○					○	○	○	
840		コシロノセンダングサ	○	○	○	○	○					○	○	○	
841		コセンダングサ	○	○	○	○	○					○	○	○	○
842		タウコギ	○			○							○		
843		ヤブタバコ				○									
844		サジガクビソウ			○										
845		トキンソウ	○			○						○		○	
846		ノアザミ		○	○	○	○					○	○		
847		スズカアザミ	○												
848		オオキンケイギク	○		○							○	○	○	
849		コスモス	○	○								○	○		
850		キバナコスモス										○			
851		マメカミツレ		○								○			○
852		ベニバナボロギク	○	○		○									
853		ヤクシソウ	○				○								
854		アメリカタカサブロウ	○			○						○	○		
855		タカサブロウ	○			○									

表 11-12-7(19) 植物相確認種一覧

No.	科名	種名	調査時期											重要な種
			R2		R3			R4			R6			
			秋季	早春	春季	夏季	秋季	初夏	夏季	秋季	春季	夏季	秋季	
856	キク科	ヒメジョオン	○	○	○	○					○	○	○	
857		ヒメムカシヨモギ	○	○	○	○	○				○	○	○	
858		ペラペラヨメナ	○											
859		ハルジオン			○						○	○	○	○
860		ヘラバヒメジョオン										○		
861		オオアレチノギク	○	○	○	○	○				○	○	○	○
862		ヒヨドリバナ (広義)	○											
863		ツワブキ	○	○	○	○					○	○	○	
864		ハキダメギク	○		○	○	○				○	○	○	
865		ホソバノチコグサモドキ		○										
866		ウラジロチコグサ	○	○	○	○					○	○		
867		チコグサモドキ	○	○	○	○					○	○		
868		タチチコグサ			○									
869		チコグサ			○						○			
870		ミズヒマワリ	○			○						○		
871		ククイモ	○									○	○	
872		キツネアザミ			○									○
873		ヒメブタナ			○									
874		ブタナ	○	○	○	○					○			
875		ニガナ	○	○	○						○			
876		オオジシバリ	○	○	○						○			○
877		イワニガナ	○		○								○	
878		アキノノゲシ	○	○	○	○	○				○	○	○	
879		トゲチシャ			○									
880		コオニタビラコ		○							○			
881		ヤブタビラコ			○						○			
882		フランスギク	○											
883		ハンカイソウ		○		○								
884		コウヤボウキ	○		○	○	○						○	
885		フキ	○	○	○	○					○		○	○
886		コウゾリナ	○											
887		ハハコグサ		○	○	○					○			○
888		セイタカハハコグサ		○		○					○			
889		ノボロギク	○	○	○						○			○
890		セイタカアワダチソウ	○	○	○	○	○				○	○	○	○
891		オニノゲシ	○	○	○						○			○
892		ノゲシ	○	○	○	○	○				○	○	○	○
893		キダチコンギク	○										○	○
894		ヒロハボウキギク	○			○					○	○	○	
895		ホウキギク										○	○	
896	ヤブレガサ		○	○										
897	シロバナタンポポ		○											
898	セイヨウタンポポ	○	○	○	○					○	○	○	○	
899	トウカイタンポポ		○											
900	ウラギク	○			○	○				○	○		○	
901	オオオナモミ	○	○		○	○					○	○		
902	イガオナモミ											○		
903	オニタビラコ (広義)			○	○	○				○	○	○	○	
904	アオオニタビラコ										○			

表 11-12-7(20) 植物相確認種一覧

No.	科名	種名	調査時期												重要な種
			R2		R3		R4			R6					
			秋季	早春 季	春季	夏季	秋季	初夏 季	夏季	秋季	春季	夏季	秋季	早春 季	
905	トベラ科	トベラ	○	○	○	○	○				○	○	○	○	
906	ウコギ科	タラノキ	○		○	○					○	○			
907		カクレミノ	○	○	○	○	○				○	○	○	○	
908		ケヤマウコギ	○		○										
909		オカウコギ	○	○	○	○									
910		ヤマウコギ	○		○									○	
911		ヤツデ	○	○	○	○	○					○	○	○	○
912		タカノツメ			○										
913		セイヨウキツタ		○									○	○	
914		キツタ	○	○	○	○	○					○	○	○	○
915		オオバチドメ												○	
916		ノチドメ	○	○	○	○						○	○	○	
917		チドメグサ	○	○	○										
918		ウチワゼニクサ	○	○	○	○						○			○
919	セリ科	ハマウド		○	○						○		○	○	
920		シシウド	○	○											
921		ツボクサ	○		○	○					○	○			
922		セントウソウ												○	
923		ミツバ	○	○	○	○					○				○
924		マツバゼリ		○							○	○	○		
925		ノラニンジン									○				
926		セリ	○	○	○	○	○				○			○	
927		ヤブニンジン		○							○				
928		ヤブジラミ			○		○				○				○
929		オヤブジラミ			○						○				
930	ガマズミ科	ソクズ		○											
931		ニワトコ		○			○							○	
932		ガマズミ	○		○	○	○								
933		コバノガマズミ	○		○	○	○								
934		サンゴジュ	○	○	○	○	○				○	○	○	○	
935	スイカズラ科	ハナノツクバネウツギ	○	○		○									
936		ツクバネウツギ	○												
937		スイカズラ	○	○	○	○	○				○	○	○	○	
	154 科	937 種	558 種	340 種	490 種	520 種	225 種	3 種	4 種	3 種	446 種	373 種	407 種	169 種	25 種

注1) 種の配列及び種名等は、原則として「令和6年版河川水辺の国勢調査のための生物リスト」(国土交通省, 2024)に準拠した。

※1. ニッケイは、重要種の選定基準③に該当するが、本種の自生は南西諸島の一部に限られており、愛知県内の確認個体は鑑賞用等の目的で栽培された株が野外に逸出したものとされるため、重要種からは除外した。

※2. シランは、重要種の選定基準③、④、⑤、⑥に該当するが、愛知県内における本種の自生地は新城市のみの限られた範囲にのみとされることから、確認された本種は自然に生育したものではなく、人為的に植栽されたものとされるため、重要種からは除外した。

※3. R2調査時に確認したオニノヤガラ属は、R4調査において結実期の種子と花茎の色から次の2種であると同定された。

・アキザキヤツシロラン (④: VU) 花期: 9月下旬~10月

・クロヤツシロラン (⑤: NT) 花期: 9~10月

※4. フサモ属は、開花が確認できず同定できなかった。重要種としては以下等が該当すると考えられる。

・フサモ (⑤: N-3) 花期: 6月~9月

※4補足. R3・R4のいずれの確認地点ともR6は消失していたため、目録では「フサモ属」とし、確認地点図から除外した。

※5. ホルトノキは、重要種の選定基準④に該当するが、確認された本種は自然に生育したものではなく、埋立地において人為的に植栽されたものであったため、重要種からは除外した。

※6. 自然公園の指定植物は、自然公園の範囲外で生育が確認された場合、重要種として扱わないこととした。

(b) 植生の状況

植物群落(植生調査)を行った結果(図 11-12-1)、調査範囲内において表 11-12-8(1)～(2)及び表 11-12-9 に示すとおり、30の代表的な植物群落と7つの土地利用等が確認されました。

現存植生図を図 11-12-2 に示します。

植物群落の調査方法を表 11-12-1、調査位置を図 11-12-1 に示しました。なお、植物群落調査により各植生の代表地点における群落組成(高木層、亜高木層、低木層、草本層の構成種、被度・群度等)を調査しました。

表 11-12-8 (1) 植物群落の概要

凡例 番号	群落名	階層構造と主要構成種
1	ミミズバイースダジイ群集	<ul style="list-style-type: none"> 高木層：スダジイ、アベマキ 亜高木層：スダジイ、ミミズバイ 低木層：サカキ、カクレミノ 草本層：スダジイ
2	タブノキ群落	<ul style="list-style-type: none"> 高木層：タブノキ、クスノキ 亜高木層：モチノキ、ミミズバイ 低木層：ネズミモチ、タブノキ 草本層：ネザサ、ジャノヒゲ
3	ムクノキエノキ群集	<ul style="list-style-type: none"> 高木層：エノキ 亜高木層：エノキ、キツタ 低木層：エノキ、カラスウリ 草本層：ネザサ、カラスウリ、アマチャヅル、クサヨシ
4	ハンノキ群落	<ul style="list-style-type: none"> 高木層：ハンノキ 亜高木層：ハンノキ 低木層：ハンノキ、ヤマハゼ 草本層：セリ、ナガバヤブマオ
5	ヤナギ低木群落	<ul style="list-style-type: none"> 低木層：マルバヤナギ、カラスウリ 草本層：カナムグラ、イワヒメワラビ
6	シイ・カシ二次林	<ul style="list-style-type: none"> 高木層：スダジイ、コナラ 亜高木層：コナラ、クロバイ 低木層：ヒサカキ、スダジイ 草本層：ネザサ、コシダ、ベニシダ
7	コナラ群落	<ul style="list-style-type: none"> 高木層：コナラ、アベマキ 亜高木層：アベマキ、スダジイ 低木層：ヒサカキ、カクレミノ、スダジイ 草本層：ササクサ、クロバイ、ヒサカキ
8	アカメガシワ・カラスザンショウ群落	<ul style="list-style-type: none"> 低木層：カラスザンショウ、アカメガシワ、クロバイ、タブノキ、マルバハギ 草本層：アカメガシワ、サルトリイバラ、ネザサ、マルバハギ、ゴンズイ
9	メダケ群落	<ul style="list-style-type: none"> 低木層：メダケ
10	ネザサ群落	<ul style="list-style-type: none"> 草本層：ネザサ、クズ、カナムグラ
11	クズ群落	<ul style="list-style-type: none"> 草本層：クズ、カナムグラ
12	ススキ群団	<ul style="list-style-type: none"> 草本層：ススキ、ネズミムギ、ネザサ
13	ヨシクラス	<ul style="list-style-type: none"> 草本層：ヨシ、イタチハギ
14	ツルヨシ群集	<ul style="list-style-type: none"> 草本層：ツルヨシ、ヌカキビ、アリタソウ
15	オギ群集	<ul style="list-style-type: none"> 草本層：オギ、ヤブカラシ、ハマダイコン
16	ヒルムシロクラス	<ul style="list-style-type: none"> 草本層：ヒシ、ハス、トチカガミ
17	塩沼地植生	<ul style="list-style-type: none"> 草本層：シオクグ、ヨシ

表 11-12-8 (2) 植物群落の概要

凡例番号	群落名	階層構造と主要構成種
18	スギ・ヒノキ・サワラ植林	<ul style="list-style-type: none"> ・高木層：スギ、ヒノキ ・亜高木層：アラカシ ・低木層：スギ ・草本層：コシダ、ベニシダ、テイカカズラ
19	クロマツ植林	<ul style="list-style-type: none"> ・高木層：クロマツ ・亜高木層：クロマツ ・低木層：トウネズミモチ ・草本層：ネザサ、ハリエンジュ
20	テーダマツ植林	<ul style="list-style-type: none"> ・高木層：テーダマツ ・亜高木層：クロバイ、ソヨゴ ・低木層：ネズミモチ、ヤブニッケイ、ヒサカキ ・草本層：コチヂミザサ、ササクサ
21	その他植林	<ul style="list-style-type: none"> ・高木層：エノキ ・亜高木層：タブノキ、サザンカ ・低木層：シュロ、ソメイヨシノ ・草本層：シュロ、テイカカズラ
22	ハリエンジュ群落	<ul style="list-style-type: none"> ・高木層：ハリエンジュ ・亜高木層：ハリエンジュ ・低木層：ノイバラ、タブノキ ・草本層：セイタカアワダチソウ、ノイバラ、ススキ
23	竹林	<ul style="list-style-type: none"> ・高木層：モウソウチク、アベマキ ・亜高木層：モウソウチク ・低木層：トウネズミモチ、イヌマキ、ケヤキ、カクレミノ ・草本層：ナガバジャノヒゲ、ムクノキ、アベマキ
24	路傍・空地雑草群落	<ul style="list-style-type: none"> ・草本層：タチスズメノヒエ、シロツメクサ
25	果樹園	—
26	畑雑草群落	—
27	水田雑草群落	<ul style="list-style-type: none"> ・草本層：タイヌビエ、クサネム、コセンダングサ、ホソバヒメミソハギ
28	放棄果樹園	—
29	放棄畑雑草群落	<ul style="list-style-type: none"> ・草本層：ヒメムカシヨモギ、アキノノゲシ、セイタカアワダチソウ、コセンダングサ
30	放棄水田雑草群落	<ul style="list-style-type: none"> ・草本層：ヤマアワ、ヤノネグサ、ヌカキビ

注1) 凡例番号は、図 11-12-2 の凡例番号を示す。

注2) 表中の階層構造と主要構成種は、群落組成調査結果より作成した。ただし、「25. 果樹園、26. 畑雑草群落、28. 放棄果樹園」は群落組成を調査していない。

表 11-12-9 土地利用等の概要

凡例番号	土地利用名	階層構造と主要構成種
31	市街地	—
32	緑の多い住宅地	—
33	残存・植栽樹群をもった公園、墓地等	—
34	工場地帯	—
35	造成地	—
36	開放水域	—
37	自然裸地	—

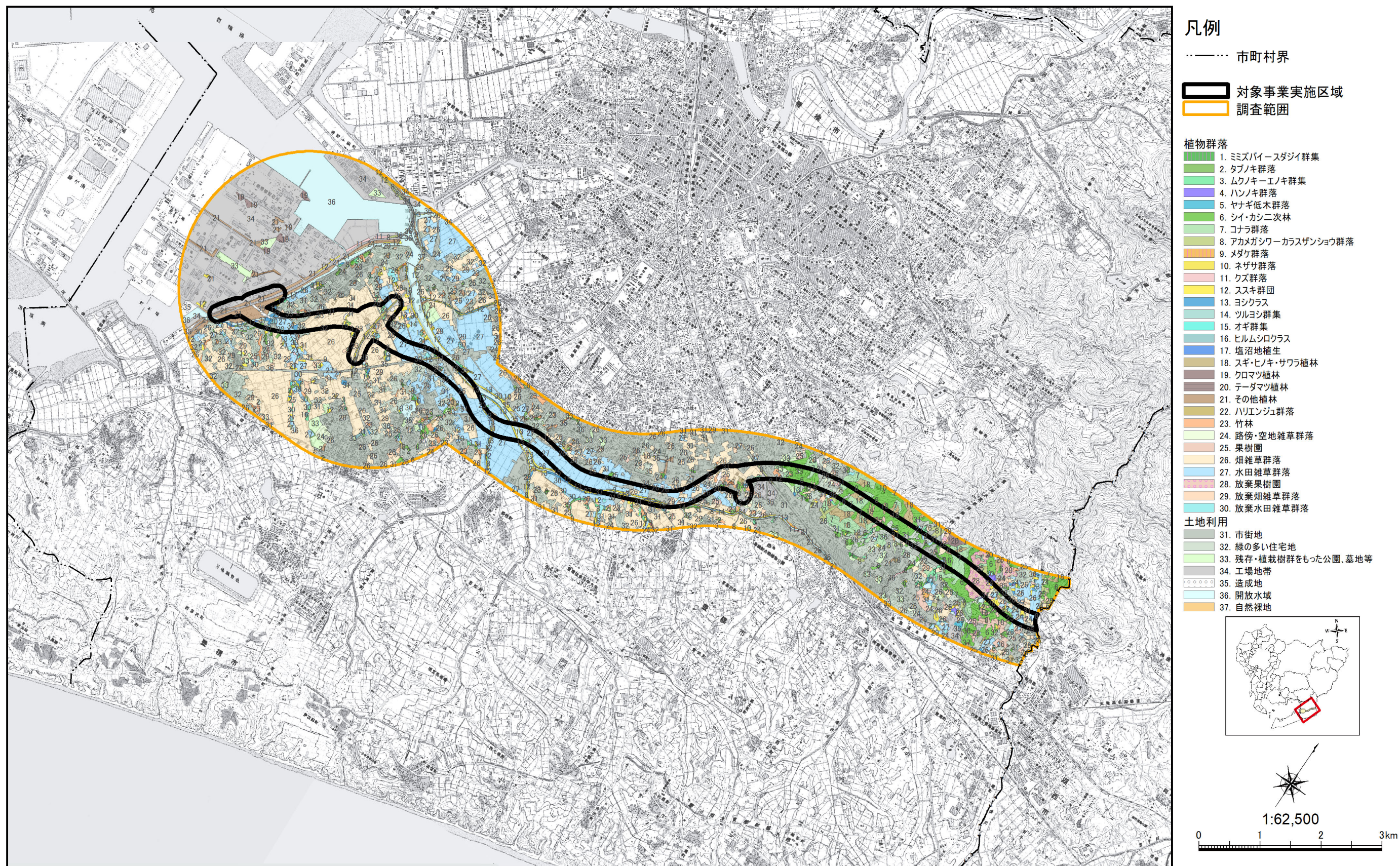


図 11-12-2 現存植生図

② 重要な種及び群落の状況

現地調査結果の概要は、表 11-12-10 に示すとおりです。なお、調査地域において重要な植物群落は確認されませんでした。

表 11-12-10 現地調査結果の概要（重要な種及び群落等）

項目	確認種数 ／件数	重要な種
重要な種	19 科 25 種	マツバラシ、イワタカンアオイ、トチカガミ、ミカワバイケイソウ、キンラン、チャボイ、ヒメコヌカグサ、ヒメミソハギ、ウスゲチヨウジタデ、ハマサジ、ハマアカザ、ノジトラノオ等
巨樹・巨木	1 件	大崎イチョウ
文化財指定されている樹木等（天然記念物）	1 件	お葉つきイチョウ（愛知県指定天然記念物）

a) 重要な種の状況

現地調査で確認された種のうち、重要な植物は、マツバランやミカワバイケイソウなど、19科25種です。なお、調査地域において、重要な植物群落は確認されませんでした。

現地調査で確認された重要な植物を表 11-12-11 に示します。

表 11-12-11 現地調査により確認された重要な植物

No.	科名	種名	選定基準							
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
1	マツバラン科	マツバラン					NT	VU	VU	愛知
2	ウマノスズクサ科	イワタカンアオイ					EN	EN	VU	
3	トチカガミ科	トチカガミ					NT	EN	VU	
4	シバナ科	シバナ					NT	NT	CR	
5	シュロソウ科	ミカワバイケイソウ					VU	EN	EN	愛知
6	ラン科	キンラン					NT	NT	NT	
7		アキザキヤツシロラン						VU		
8		クロヤツシロラン							NT	
9		ウスギムヨウラン					NT	VU	NT	
10		コクラン								愛知
11	カヤツリグサ科	チャボイ					VU			
12	イネ科	ヒメコヌカグサ					NT		NT	
13	ミソハギ科	ヒメミソハギ						NT		
14	アカバナ科	ウスゲチョウジタデ					NT		NT	
15	アオイ科	ハマボウ						VU		
16	イソマツ科	ハマサジ					NT	NT	EX	
17	ヒユ科	ホソバハマアカザ								N-III
18		ハマアカザ						VU	N-I	
19		ハママツナ								N-I
20	サクラソウ科	ノジトラノオ					VU	CR		
21	ツツジ科	ナガボナツハゼ				県指	CR	CR	EN	
22	オオバコ科	カワヂシャ					NT			
23	シソ科	タニジャコウソウ					NT	EN		
24	ハエドクソウ科	スズメノハコベ						NT		
25	キク科	ウラギク					NT	VU	VU	
	19科	25種	0種	0種	0種	1種	16種	17種	16種	3種

注) 選定基準(選定基準番号)及びランクは、表 11-12-3 に示すとおりです。

b) 巨樹・巨木林の状況

現地調査では、「第4回自然環境保全基礎調査自然環境情報図」（平成7年、環境庁）、
「第6回自然環境保全基礎調査巨樹・巨木林フォローアップ調査報告書」（平成13年3月、
環境省自然環境局生物多様性センター）に掲載されている巨樹・巨木林として、表 11-
12-12 に示す1件を確認しました。

表 11-12-12 現地調査により確認された巨樹・巨木林

No.	件名	備考
1	大崎イチョウ	表 4-1-65 の「No. 16 大崎イチョウ」に該当

c) 文化財指定されている樹木等（天然記念物）

現地調査では、天然記念物（植物）として表 11-12-13 に示す1件が確認されました。

表 11-12-13 現地調査により確認された植物に係る天然記念物

No.	件名	備考
1	お葉つきイチョウ	愛知県指定天然記念物

(2) 予測

1) 予測の手法

① 予測手法

植物の重要な種及び群落について、「道路環境影響評価の技術手法」に基づき、分布又は生育環境の改変の程度を踏まえた解析により行いました。

工事施工ヤード及び工事用道路等の設置位置、掘削工事、トンネル工事の実施、道路構造と重要な種・群落等の生育地の分布範囲から、生育地・生育環境が消失・縮小する区間及びその程度を把握しました。

また、工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、掘削工事・トンネル工事の実施及び道路の存在による対象種の生態を踏まえた生育環境の質的変化の程度（水の濁り、土壌水分、日照等の変化、地下水・河川流量の変化）についても把握しました。なお、水の濁りによる影響は河川や湿地に生育する植物を、土壌水分、日照等の変化は林床や湿地に生育する植物を、地下水の変化は湿地に生育する植物を対象に検討しました。

次に、それらが重要な種・群落等に及ぼす影響の程度を、科学的知見や類似事例を参考に予測しました。

予測手順を図 11-12-3 に示します。

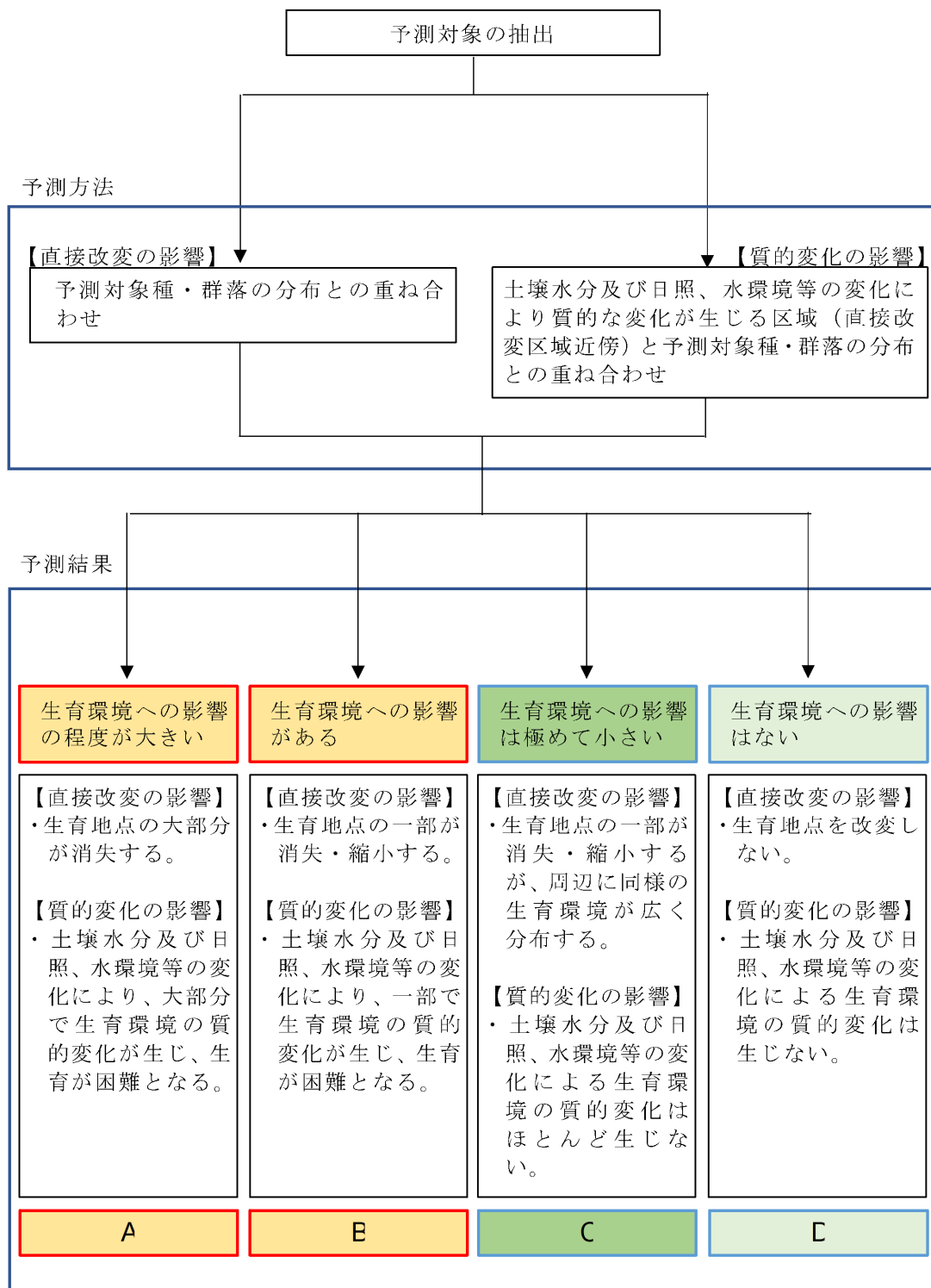


図 11-12-3 植物の予測手順

② 予測地域

予測地域は、調査地域のうち、植物の生育の特性を踏まえて重要な種及び群落に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とし、地表部が改変され直接的な影響を受ける地域（以下、『直接改変区域』と称する。）と、工事作業または道路の存在による間接的な影響を受ける地域（以下、『事業実施区域周辺』と称する。）としました。さらに、道路の存在及び生育地に隣接する樹林帯の改変による光・風環境等の変化が想定される範囲として、道路の端部から概ね 50m 程度を「直接改変区域近傍」としました。

● 予測地域

直接改変区域：都市計画対象道路事業実施区域内の直接改変を受ける区域（供用後は法面や側道等を含む道路用地境界まで、工事中は施工ヤード等を含む）

直接改変区域近傍：道路の存在及び生育地に隣接する樹林帯の改変による光・風環境等の変化が想定される範囲（道路建設に伴い樹林が伐採されると、道路の端部から概ね 50m 程度まで植生の変化等の影響が認められる）

事業実施区域周辺(直接改変区域外)：直接改変区域及び直接改変区域近傍を除く調査範囲

注) 都市計画対象道路事業実施区域については、p3-1～3-2 を参照

③ 予測対象時期等

予測の対象時期は、事業特性及び重要な種及び群落の生態や特性を踏まえ、影響が最大になるおそれのある時期としました。

具体的には、工事用道路の建設工事や工事施工ヤードの整備等、現状の土地を改変する段階からの工事実施時期、並びに道路施設が完成・供用する時期としました。

④ 予測対象種の選定

予測対象種は、現地調査により事業実施区域及びその周辺で生育が確認された重要な種を選定しました。

予測対象とした重要な種は表 11-12-14 に示す 25 種です。

なお、表 11-12-14 の「確認種の生育基盤」については、図 11-12-4 植物の生育基盤図 (p11-12-41) に示します。

表 11-12-14 予測対象種（重要な植物）

種名	確認種の 生育基盤	確認地点		
		直接改 変区域	直接改変 区域近傍	事業実施 区域周辺
1	マツバラシ	樹林環境		●
2	イワタカンアオイ	樹林環境		●
3	トチカガミ	耕作地及び緑の 多い住宅地環境		●
4	シバナ	水辺環境		●
5	ミカワバイケイソウ	樹林環境		●
6	キンラン	樹林環境		●
7	アキザキヤツシロラン	樹林環境		●
8	クロヤツシロラン	樹林環境		●
9	ウスギムヨウラン	樹林環境 耕作地及び緑の 多い住宅地環境		●
10	コ克蘭	樹林環境		●
11	チャボイ	水辺環境		●
12	ヒメコヌカグサ	樹林環境		●
13	ヒメミソハギ	耕作地及び緑の 多い住宅地環境		●
14	ウスゲチョウジタデ	耕作地及び緑の 多い住宅地環境		●
15	ハマボウ	水辺環境 塩性湿地環境		●
16	ハマサジ	水辺環境 塩性湿地環境		●
17	ホソバハマアカザ	水辺環境 塩性湿地環境		●
18	ハマアカザ	水辺環境		●
19	ハママツナ	水辺環境		●
20	ノジトラノオ	耕作地及び緑の 多い住宅地環境		●
21	ナガボナツハゼ	樹林環境		●
22	カワヂシャ	耕作地及び緑の 多い住宅地環境	●	●
23	タニジャコウソウ	樹林環境		●
24	スズメノハコベ	耕作地及び緑の 多い住宅地環境 水辺環境	●	●
25	ウラギク	水辺環境 塩性湿地環境	●	●

2) 予測の結果

① 予測結果の概要

重要な種の予測結果の概要は表 11-12-16 に示すとおりです。

生育環境への影響については、図 11-12-3 の手順により、以下のように整理しました。

- A：生育環境への影響の程度が大きい
- B：生育環境への影響がある
- C：生育環境への影響は極めて小さい
- D：生育環境への影響がない

なお、生育基盤の消失の程度は、表 11-12-15 に示すとおりです。

植物の生育基盤図を図 11-12-4 に示します。

表 11-12-15 生育基盤の消失の程度

生育基盤の種類	現況		改変面積	
	面積(ha)	割合(%)	面積(ha)	改変率(%)
樹林環境	416.90	12.58	5.84	1.40
耕作地及び緑の多い住宅地環境	2325.14	70.16	53.38	2.30
水辺環境	112.11	3.38	1.47	1.31

注1) 表中の「現況の割合」は、調査範囲の全面積に対する各生育基盤の占める割合(%)を示しています。

注2) 表中の「改変率」は、各生育基盤における改変率(%)を示しています。

注3) 改変面積には、トンネル区間(地下部)を含んでいません。

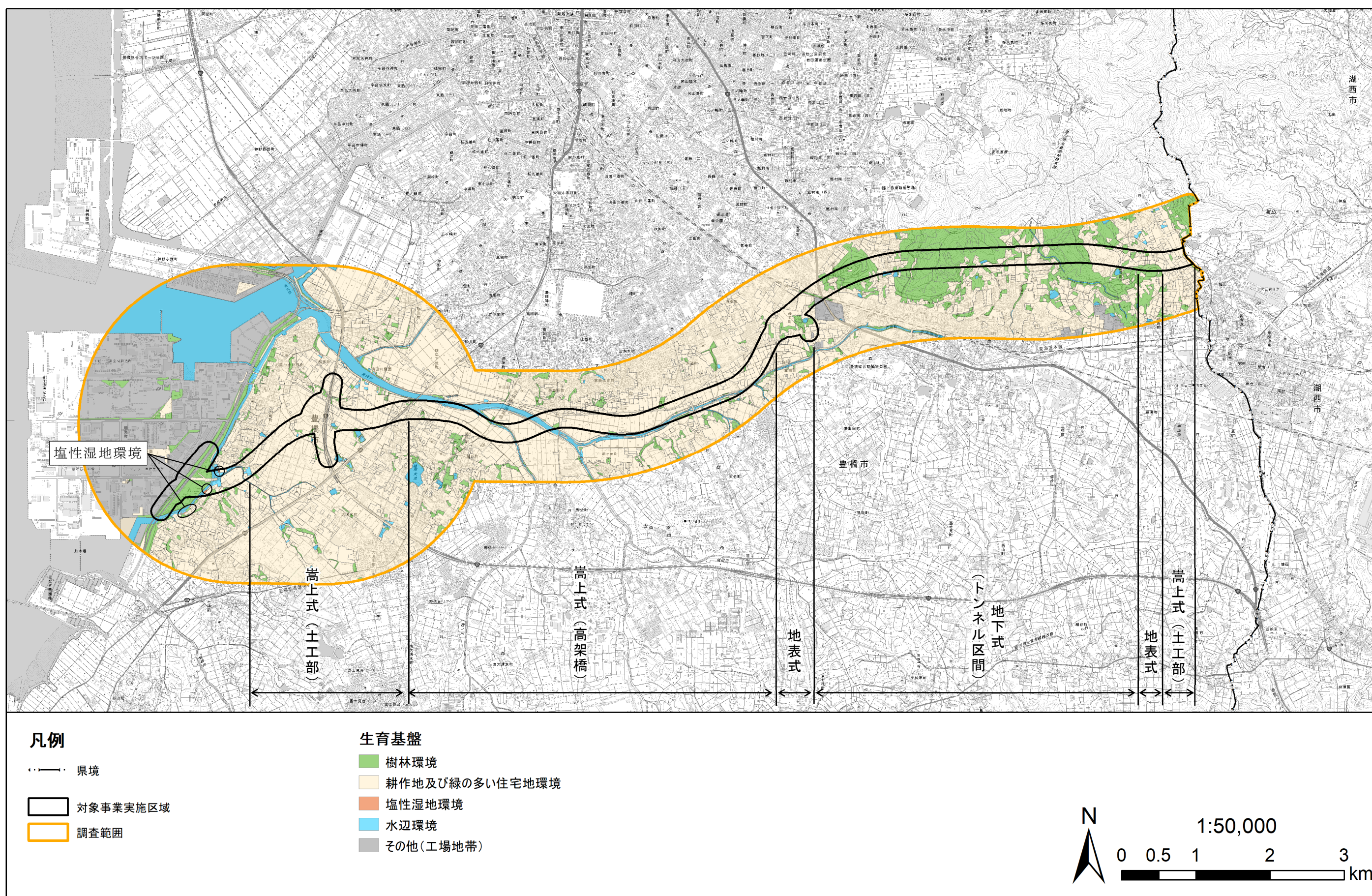


図 11-12-4 植物の生育基盤図

表 11-12-16 重要な種の予測結果概要

種名	主な生育環境	確認地点			生育環境への影響	
		直接改変区域	直接改変区域近傍	事業実施区域周辺	工事の実施	存在・供用
1 マツバラシ	樹林環境			●	D	D
2 イワタカンアオイ	樹林環境			●	D	D
3 トチカガミ	水辺環境			●	D	D
4 シバナ	水辺環境 塩性湿地			●	D	D
5 ミカワバイケイソウ	樹林環境			●	D	D
6 キンラン	樹林環境			●	D	D
7 アキザキヤツシロラン	樹林環境			●	D	D
8 クロヤツシロラン	樹林環境			●	D	D
9 ウスギムヨウラン	樹林環境 耕作地及び緑の多い住宅地環境			●	D	D
10 コ克蘭	樹林環境			●	D	D
11 チャボイ	水辺環境			●	D	D
12 ヒメコヌカグサ	樹林環境			●	D	D
13 ヒメミソハギ	耕作地及び緑の多い住宅地環境			●	D	D
14 ウスゲチョウジタデ	耕作地及び緑の多い住宅地環境			●	D	D
15 ハマボウ	水辺環境			●	D	D
16 ハマサジ	水辺環境			●	D	D
17 ホソバハマアカザ	水辺環境			●	D	D
18 ハマアカザ	水辺環境			●	D	D
19 ハママツナ	水辺環境 塩性湿地環境			●	D	D
20 ノジトラノオ	耕作地及び緑の多い住宅地環境			●	D	D
21 ナガボナツハゼ	樹林環境			●	D	D
22 カワヂシャ	耕作地及び緑の多い住宅地環境		●	●	C	C
23 タニジャコウソウ	樹林環境			●	D	D
24 スズメノハコベ	耕作地及び緑の多い住宅地環境 水辺環境	●	●	●	C	C
25 ウラギク	水辺環境		●	●	C	C

② 予測結果

(a) 植物相

調査地域に存在する重要な植物の予測結果は、表 11-12-17(1)～(25)に示すとおりです。

表 11-12-17(1) 重要な植物の予測結果（マツバラン）

項目	内容	
生態	常緑性の多年生シダ植物。根はなく、葉もない。熱帯・亜熱帯域では山地の自然林の樹幹に着生することが多いが、愛知県も含めて、分布域の北限近くではほとんど岩場に生育している。稀に地上に生育することもある。 ¹⁾	
現地調査における確認状況	確認状況	樹林環境において1地点1株が確認された。
	確認時期	R2 秋季
	確認位置	直接改変区域：－ 直接改変区域近傍：－ 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：1地点1株
生育環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生育環境は、樹林環境と考えられる。	
工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、掘削工事、トンネル工事の実施による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域及び近傍には本種の生育地点は存在せず、事業実施区域周辺では1地点1株の生育が確認されたが、直接改変区域及びその近傍から十分な距離が確保されていることから、生育地の環境条件の変化はなく、生育環境の質的な変化は生じない。 ・本種の主な生育環境である樹林環境は直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・確認された生育環境は、直接改変区域及びその近傍から十分な距離が確保されており、生育地点の直接改変は生じないことから、生育地の環境条件の変化はなく、工事の実施（建設機械の稼働、工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、掘削工事）に伴う生育環境への質的な変化は生じない。 ・本種の生育環境の周辺には地下水の変化に影響を及ぼすトンネル構造は計画されていないことから、掘削工事、トンネル工事の実施に伴う生育環境の質的な変化は生じない。 <p>以上より、本種の生育環境への影響はないと予測される。</p>	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域及び近傍には本種の生育地点は存在せず、事業実施区域周辺では1地点1株が確認されたが、確認された生育地点は、直接改変区域及びその近傍から十分な距離が確保されており、本種の生育環境の周辺には地下水の変化に影響を及ぼすトンネル構造は計画されていないことから、生育地の環境条件の変化はなく、道路の存在(地表式、嵩上式及び地下式)に伴う生育環境への質的な変化(水の濁り、土壌水分、日照等、地下水の変化)は生じない。 <p>以上より、本種の生育環境への影響はないと予測される。</p>	

1) 「レッドデータブックあいち2020－植物編－」(愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月)

表 11-12-17(2) 重要な植物の予測結果（イワタカンアオイ）

項目	内容	
生態	<p>現在のところある程度の個体数はあるが、カンアオイ類は園芸目的の採取によって全国で多くの種が絶滅の危機に瀕しており、特に注意が必要である。</p> <p>常緑性の多年生草本。茎は地上を短くは、葉の落ちたあとが節になり、多肉質で暗紫色、芳香がある。葉は円形～卵状楕円形、長さ6～8cm、幅5～7cm、基部は深い心形、表面には淡色の斑紋がある。花期は3～4月、花は暗紫色で直径2～2.5cm、がく筒は長さ1cm程度で、内面に30本前後の縦の隆起線と約10本の横の隆起線があり、細密な格子状模様になる。がくの上葉は3裂して開出し、裂片は卵状3角形で細毛がある。¹⁾</p>	
現地調査における確認状況	確認状況	樹林環境において8地点124株が確認された。
	確認時期	R2 秋季、R2 早春季、R3 春季
	確認位置	直接改変区域：— 直接改変区域近傍：— 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：8地点124株
生育環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生育環境は、樹林環境と考えられる。	
工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、掘削工事、トンネル工事の実施による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> 直接改変区域及び近傍には本種の生育地点は存在せず、事業実施区域周辺では8地点124株の生育が確認されたが、直接改変区域及びその近傍から十分な距離が確保されていることから、生育地の環境条件の変化はなく、生育環境の質的な変化は生じない。 本種の主な生育環境である樹林環境は直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。 確認された生育環境は、直接改変区域及びその近傍から十分な距離が確保されており、生育地点の直接改変は生じないことから、生育地の環境条件の変化はなく、工事の実施（建設機械の稼働、工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、掘削工事）に伴う生育環境への質的な変化は生じない。 本種の生育環境の周辺には地下水の変化に影響を及ぼすトンネル構造は計画されていないことから、掘削工事、トンネル工事の実施に伴う生育環境の質的な変化は生じない。 <p>以上より、本種の生育環境への影響はないと予測される。</p>	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> 直接改変区域及び近傍には本種の生育地点は存在せず、事業実施区域周辺では8地点124株の生育が確認されたが、確認された生育地点は、直接改変区域及びその近傍から十分な距離が確保されており、本種の生育環境の周辺には地下水の変化に影響を及ぼすトンネル構造は計画されていないことから、生育地の環境条件の変化はなく、道路の存在（地表式、嵩上式及び地下式）に伴う生育環境への質的な変化（水の濁り、土壌水分、日照等、地下水の変化）は生じない。 <p>以上より、本種の生育環境への影響はないと予測される。</p>	

1) 「レッドデータブックあいち2020—植物編—」（愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月）

表 11-12-17(3) 重要な植物の予測結果（トチカガミ）

項目	内容	
生態	<p>平野部の湖沼、ため池、水路などに生育する。一般に富栄養の、しかし過栄養でない水域に生育している。</p> <p>水面に浮遊する多年生草本。茎は長く、水中を横にはい、節から根と数枚の葉を出す。葉は長さ4～20cmの柄があり、柄の基部に2個の托葉がある。葉身は円心形、直径4～7cm、全縁で、裏面の中央に気胞があり、水面に浮かぶ。花期は8～10月、花は柄が伸びて水面で開花し、雌雄異花、雄性の苞鞘内には約5個のつぼみができ、雌性の苞鞘内には雌花が1個だけ発達する。雄花、雌花ともに花弁は3個で白色、長さ10～13mmである。冬には水中茎の先端が長さ2～4cmの殖芽となり、水中に沈んで越冬する。¹⁾</p>	
現地調査における確認状況	確認状況	水辺環境において1地点100株が確認された。
	確認時期	R6 秋季
	確認位置	直接改変区域：— 直接改変区域近傍：— 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：1地点100株
生育環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生育環境は、水辺環境と考えられる。	
工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、掘削工事、トンネル工事の実施による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> 直接改変区域及び近傍には本種の生育地点は存在せず、事業実施区域周辺では1地点100株の生育が確認されたが、直接改変区域及びその近傍から十分な距離が確保されていることから、生育地の環境条件の変化はなく、生育環境の質的な変化は生じない。 本種の主な生育環境である水辺環境は直接改変により一部が消失・縮小するが、当生息地は改変されない。工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、本種の生育環境である池沼や水路は広く残される。 確認された生育環境は、直接改変区域及びその近傍から十分な距離が確保されており、生育地点の直接改変は生じないことから、生育地の環境条件の変化はなく、工事の実施（建設機械の稼働、工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、掘削工事）に伴う生育環境への質的な変化は生じない。 本種の生育環境の周辺には地下水の変化に影響を及ぼすトンネル構造は計画されていないことから、掘削工事、トンネル工事の実施に伴う生育環境の質的な変化は生じない。 <p>以上より、本種の生育環境への影響はないと予測される。</p>	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> 直接改変区域及び近傍には本種の生育地点は存在せず、事業実施区域周辺では1地点100株の生育が確認されたが、直接改変区域及びその近傍から十分な距離が確保されており、本種の生育環境の周辺には地下水の変化に影響を及ぼすトンネル構造は計画されていないことから、生育地の環境条件の変化はなく、道路の存在（地表式、嵩上式及び地下式）に伴う生育環境への質的な変化（水の濁り、日照等、地下水の変化）は生じない。 <p>以上より、本種の生育環境への影響はないと予測される。</p>	

1) 「レッドデータブックあいち2020—植物編—」（愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月）

表 11-12-17(4) 重要な植物の予測結果（シバナ）

項目	内容	
生態	<p>河口や干潟などの塩湿地に生育する。自然度の高い塩湿地だけでなく、護岸堤防のすき間、埋め立て地の水路など、攪乱された場所に大きい群落を作っている場合もある。</p> <p>多年生草本。地下茎は太く、横にはい、よく分枝して株になる。葉は束生し、細い線形、長さ10～40cm、幅1.5～5mm、断面は半月形、先端は鈍頭、下部は葉鞘となる。葉鞘は白色で、先端に長さ3～5mmの葉舌がある。花期は9～10月、花茎は高さ15～50cmで直立し、その上部の長さ5～15cmの総状花序に、多数の花をつける。花には花時に長さ1.5～2mm、果時に長さ2.5～5mmの柄があり、花被片は6枚、黄緑色、楕円形で長さ約2.5mm、雄ずいと心皮も6個である。果実は6心皮が集まって長楕円形となり、長さ3.5～4.4mm、先端に柱頭が残存する。¹⁾</p>	
現地調査における確認状況	確認状況	水辺環境において16地点2430株が確認された。
	確認時期	R2 秋季、R3 春季、R3 夏季、R3 秋季、R6 春季、R6 夏季
	確認位置	直接改変区域：— 直接改変区域近傍：— 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：16地点2430株
生育環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生育環境は、水辺環境や隣接した塩性湿地と考えられる。	
工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、掘削工事、トンネル工事の実施による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> 直接改変区域及び近傍には本種の生育地点は存在せず、事業実施区域周辺では16地点2430株の生育が確認されたが、直接改変区域及びその近傍から十分な距離が確保されていることから、生育地の環境条件の変化はなく、生育環境の質的な変化は生じない。 本種の主な生育環境である水辺環境は直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。 確認された生育環境は、直接改変区域及びその近傍から十分な距離が確保されており、生育地点の直接改変は生じないことから、生育地の環境条件の変化はなく、工事の実施（建設機械の稼働、工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、掘削工事）に伴う生育環境への質的な変化は生じない。 本種の生育環境の周辺には地下水の変化に影響を及ぼすトンネル構造は計画されていないことから、掘削工事、トンネル工事の実施に伴う生育環境の質的な変化は生じない。 <p>以上より、本種の生育環境への影響はないと予測される。</p>	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> 直接改変区域及び近傍には本種の生育地点は存在せず、事業実施区域周辺では16地点2430株の生育が確認されたが、確認された生育地点は、直接改変区域及びその近傍から十分な距離が確保されており、本種の生育環境の周辺には地下水の変化に影響を及ぼすトンネル構造は計画されていないことから、生育地の環境条件の変化はなく、道路の存在（地表式、嵩上式及び地下式）に伴う生育環境への質的な変化（水の濁り、土壌水分、日照等、地下水の変化）は生じない。 <p>以上より、本種の生育環境への影響はないと予測される。</p>	

1) 「レッドデータブックあいち2020—植物編—」（愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月）

表 11-12-17(5) 重要な植物の予測結果（ミカワバイケイソウ）

項目	内容	
生態	<p>本来は陽性の植物と思われるが、現在では周囲の樹木が生長し、生育地が林内になってしまっていることが多い。かつては湿原に多く生育していたというが、開拓により激減し、現在では僅かに残存しているにすぎない。</p> <p>大型の多年生草本。太く短い地下茎がある。地上茎は高さ90～150cm、茎葉は互生し、基部につくものは鱗片状、中部以上につくものは10～14枚あって長楕円形～楕円形、長さ20～35cm、幅8～15cm、先端は鋭頭、基部は鞘になって茎を包み、裏面に短毛がある。花期は5月、茎の先端に長さ20～40cmで2～9本の枝がある大きい円錐花序をつけ、多数の花をつける。花は両性花と雄花があり、主軸上のものは両性花、他は雄花のことが多いが、ほとんど全部が両性花のこともある。花被片は6個、白色、長楕円形で長さ5～8mm、通常辺縁に著しい歯状の欠刻があるが、ほとんど全縁のものもある。雄ずいは6本、花被片よりやや長い。¹⁾</p>	
現地調査における確認状況	確認状況	樹林環境において、2地点320株が確認された。
	確認時期	R2 早春季、R3 春季
	確認位置	直接改変区域：— 直接改変区域近傍：— 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：2地点320株
生育環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生育環境は、樹林環境と考えられる。	
工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、掘削工事、トンネル工事の実施による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> 直接改変区域及び近傍には本種の生育地点は存在せず、事業実施区域周辺では2地点320株の生育が確認されたが、直接改変区域及びその近傍から十分な距離が確保されていることから、生育地の環境条件の変化はなく、生育環境の質的な変化は生じない。 本種の主な生育環境である樹林環境は直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。 確認された生育環境は、直接改変区域及びその近傍から十分な距離が確保されており、生育地点の直接改変は生じない。またトンネル部からも十分な距離が確保されていることから、生育地の環境条件の変化はなく、工事の実施（建設機械の稼働、工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、掘削工事）に伴う生育環境への質的な変化は生じない。 本種の生育環境の周辺には地下水の変化に影響を及ぼすトンネル構造は計画されていないことから、掘削工事、トンネル工事の実施に伴う生育環境の質的な変化は生じない。 <p>以上より、本種の生育環境への影響はないと予測される。</p>	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> 直接改変区域及び近傍には本種の生育地点は存在せず、事業実施区域周辺では2地点320株の生育が確認されたが、確認された生育地点は、直接改変区域及びその近傍から十分な距離が確保されており、本種の生育環境の周辺には地下水の変化に影響を及ぼすトンネル部から十分な距離が確保されていることから、生育地の環境条件の変化はなく、道路の存在（地表式、嵩上式及び地下式）に伴う生育環境への質的な変化（水の濁り、土壌水分、日照等、地下水の変化）は生じない。 <p>以上より、本種の生育環境への影響はないと予測される。</p>	

1) 「レッドデータブックあいち2020－植物編－」（愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月）

表 11-12-17(6) 重要な植物の予測結果（キンラン）

項目	内容	
生態	丘陵地～山地の明るい落葉広葉樹林内に生育する。多年生草本。茎は直立し、高さ30～70cmになる。葉は6～8個が互生し、広披針形、長さ8～15cm、幅2～4cm、先端は鋭尖頭、基部は茎を抱き、平滑で縦脈が目立つ。花期は4～6月、花は茎の上部に3～12個つき、黄色、苞は3角形で長さ約2mm、膜質である。がく片は卵状長楕円形、長さ14～17mm、先端は鈍頭、側花弁は長卵形で、がく片よりやや短い。唇弁の基部はふくらんで短い距となり、舷部は3裂し、側裂片は3角状卵形でずい柱を抱き、中裂片は円心形で内面に数本の隆起条がある。 ¹⁾	
現地調査における確認状況	確認状況	樹林環境において、1地点2株が確認された。
	確認時期	R3 春季
	確認位置	直接改変区域：— 直接改変区域近傍：— 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：1地点2株
生育環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生育環境は、樹林環境と考えられる。	
工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、掘削工事、トンネル工事の実施による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> 直接改変区域及び近傍には本種の生育地点は存在せず、事業実施区域周辺では1地点2株の生育が確認されたが、直接改変区域及びその近傍から十分な距離が確保されていることから、生育地の環境条件の変化はなく、生育環境の質的な変化は生じない。 本種の主な生育環境である樹林環境は直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。 確認された生育環境は、直接改変区域及びその近傍から十分な距離が確保されており、生育地点の直接改変は生じないことから、生育地の環境条件の変化はなく、工事の実施（建設機械の稼働、工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、掘削工事）に伴う生育環境への質的な変化は生じない。 本種の生育環境の周辺には地下水の変化に影響を及ぼすトンネル構造は計画されていないことから、掘削工事、トンネル工事の実施に伴う生育環境の質的な変化は生じない。 <p>以上より、本種の生育環境への影響はないと予測される。</p>	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> 直接改変区域及び近傍には本種の生育地点は存在せず、事業実施区域周辺では1地点2株の生育が確認されたが、確認された生育地点は、直接改変区域及びその近傍から十分な距離が確保されており、本種の生育環境の周辺には地下水の変化に影響を及ぼすトンネル構造は計画されていないことから、生育地の環境条件の変化はなく、道路の存在（地表式、嵩上式及び地下式）に伴う生育環境への質的な変化（水の濁り、土壌水分、日照等、地下水の変化）は生じない。 <p>以上より、本種の生育環境への影響はないと予測される。</p>	

1) 「レッドデータブックあいち2020—植物編—」（愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月）

表 11-12-17(7) 重要な植物の予測結果(アキザキヤツシロラン)

項目	内容	
生態	腐生の多年生草本。根茎は長さ2.5～5cm、直径4～10mmの紡錘状の塊茎になる。地上茎は根茎の先端から1本出て、高さ5～12cm、数個の膜質の鱗片葉をつける。花期は9月下旬～10月、茎の先端部に黒褐色の花を2～6個つける。苞は卵形、長さ3～6mmである。花は3がく片が合着して長さ10～12mmの鐘状になり、花柄は花時には長さ1cm以下であるが、花後著しく伸長して30～45cmに達する。果実は晩秋に熟し、細長い楕円形、長さ2～3.5cm、直径7～8mm、暗黄褐色である。 ¹⁾	
現地調査における確認状況	確認状況	樹林環境において、1地点8株が確認された。
	確認時期	R4 秋季、R6 秋季
	確認位置	直接改変区域：— 直接改変区域近傍：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：1地点8株
生育環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生育環境は、樹林環境と考えられる。	
工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、掘削工事、トンネル工事の実施による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> 直接改変区域及び近傍には本種の生育地点は存在せず、事業実施区域周辺では1地点8株の生育が確認されたが、直接改変区域及びその近傍から十分な距離が確保されていることから、生育地の環境条件の変化はなく、生育環境の質的な変化は生じない。 本種の主な生育環境である樹林環境は直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。 確認された生育環境は、直接改変区域及びその近傍から十分な距離が確保されており、生育地点の直接改変は生じないことから、生育地の環境条件の変化はなく、工事の実施(建設機械の稼働、工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、掘削工事)に伴う生育環境への質的な変化は生じない。 本種の生育環境の周辺には地下水の変化に影響を及ぼすトンネル構造は計画されていないことから、掘削工事、トンネル工事の実施に伴う生育環境の質的な変化は生じない。 <p>以上より、本種の生育環境への影響はないと予測される。</p>	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> 直接改変区域及び近傍には本種の生育地点は存在せず、事業実施区域周辺では1地点8株の生育が確認されたが、確認された生育地点は、直接改変区域及びその近傍から十分な距離が確保されており、本種の生育環境の周辺には地下水の変化に影響を及ぼすトンネル構造は計画されていないことから、生育地の環境条件の変化はなく、道路の存在(地表式、嵩上式及び地下式)に伴う生育環境への質的な変化(水の濁り、土壌水分、日照等、地下水の変化)は生じない。 <p>以上より、本種の生育環境への影響はないと予測される。</p>	

1) 「レッドデータブックあいち2020-植物編-」(愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月)

表 11-12-17(8) 重要な植物の予測結果（クロヤツシロラン）

項目	内容	
生態	<p>菌従属性栄養の多年草。高さ1～3cm。花期は9～10月。茎の先端に1～8個の花をⅢ形状につける。花は帯紫褐色でわずかに臭いにおいがある。ガクと側花弁は合着して、先が分かれて平開し、径15～20mm、唇弁の先端付近に2個の三角状の突起があり、内面にクリーム色の毛を密生させる。近年のアキザキヤツシロランは生育環境も花期もほぼ同じであるが花が平開しないで唇弁に毛が無い。</p> <p>産地は西部を主として多い。産量は、やや多い。古い竹藪の適湿で朽ちた竹の林床に生息することが多い。産地及び産量は年による消長がある。¹⁾</p>	
現地調査における確認状況	確認状況	樹林環境において1箇地点10株が確認された。
	確認時期	R4 秋季
	確認位置	直接改変区域：— 直接改変区域近傍：— 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：1地点10株
生育環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生育環境は、樹林環境と考えられる。	
工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、掘削工事、トンネル工事の実施による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> 直接改変区域及び近傍には本種の生育地点は存在せず、事業実施区域周辺では1地点10株の生育が確認されたが、直接改変区域及びその近傍から十分な距離が確保されていることから、生育地の環境条件の変化はなく、生育環境の質的な変化は生じない。 本種の主な生育環境である樹林環境は直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。 確認された生育環境は、直接改変区域及びその近傍から十分な距離が確保されており、生育地点の直接改変は生じないことから、生育地の環境条件の変化はなく、工事の実施（建設機械の稼働、工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、掘削工事）に伴う生育環境への質的な変化は生じない。 本種の生育環境の周辺には地下水の変化に影響を及ぼすトンネル構造は計画されていないことから、掘削工事、トンネル工事の実施に伴う生育環境の質的な変化は生じない。 <p>以上より、本種の生育環境への影響はないと予測される。</p>	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> 直接改変区域及び近傍には本種の生育地点は存在せず、事業実施区域周辺では1地点10株の生育が確認されたが、確認された生育地点は、直接改変区域及びその近傍から十分な距離が確保されており、本種の生育環境の周辺には地下水の変化に影響を及ぼすトンネル構造は計画されていないことから、生育地の環境条件の変化はなく、道路の存在（地表式、嵩上式及び地下式）に伴う生育環境への質的な変化（水の濁り、土壌水分、日照等、地下水の変化）は生じない。 <p>以上より、本種の生育環境への影響はないと予測される。</p>	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2020—静岡県レッドデータブック〈植物・菌類編〉—」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、令和2年3月）

表 11-12-17(9) 重要な植物の予測結果(ウスギムヨウラン)

項目	内容	
生態	<p>丘陵地の常緑広葉樹、または落葉広葉樹の二次林内に生育する。 腐生の多年生草本。地下茎は長さ3~5cm、木質で硬く、はじめ下を向き、すぐ反転して地表近くまで伸び、長さ4~5mmの鱗片葉をつける。根は下向き~反転部から逆向してやや下向きに出る。地上茎は直立し、高さ13~20cm、黄褐色、3~4個の鱗片葉を互生する。鱗片葉は長さ4~6mm、先端は鈍~鋭頭である。花期は6月、花は茎の上部に2~6個つき、長さ1~5cmの総状花序となり、淡黄褐色、筒状で半開し、苞は三角形で長さ3~4mmである。がく片は倒披針形、長さ13~15mm、側花弁はやや幅が広い。唇弁は長さ10~12mm、3裂するが側裂片は小さく、中裂片は肉質で先が紅色の毛状突起が密生する。¹⁾</p>	
現地調査における確認状況	確認状況	樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境において12地点159株が確認された。
	確認時期	R2 秋季、R2 早春季、R3 春季、R4 初夏
	確認位置	直接改変区域：— 直接改変区域近傍：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：12地点159株
生育環境の分布状況	<p>本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生育環境は、樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境と考えられる。</p>	
工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、掘削工事、トンネル工事の実施による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> 直接改変区域及び近傍には本種の生育地点は存在せず、事業実施区域周辺では12地点159株の生育が確認されたが、直接改変区域及びその近傍から十分な距離が確保されていることから、生育地の環境条件の変化はなく、生育環境の質的な変化は生じない。 本種の主な生育環境である樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地環境は直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。 確認された生育環境は、直接改変区域及びその近傍から十分な距離が確保されており、生育地点の直接改変は生じないことから、生育地の環境条件の変化はなく、工事の実施(建設機械の稼働、工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、掘削工事)に伴う生育環境への質的な変化は生じない。 本種の生育環境の周辺には地下水の変化に影響を及ぼすトンネル構造は計画されていないことから、掘削工事、トンネル工事の実施に伴う生育環境の質的な変化は生じない。 <p>以上より、本種の生育環境への影響はないと予測される。</p>	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> 直接改変区域及び近傍には本種の生育地点は存在せず、事業実施区域周辺では12地点159株の生育が確認されたが、確認された生育地点は、直接改変区域及びその近傍から十分な距離が確保されており、本種の生育環境の周辺には地下水の変化に影響を及ぼすトンネル構造は計画されていないことから、生育地の環境条件の変化はなく、道路の存在(地表式、嵩上式及び地下式)に伴う生育環境への質的な変化(水の濁り、土壌水分、日照等、地下水の変化)は生じない。 <p>以上より、本種の生育環境への影響はないと予測される。</p>	

1) 「レッドデータブックあいち2020-植物編-」(愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月)

表 11-12-17(10) 重要な植物の予測結果(コクラン)

項目	内容	
生態	暖温帯の常緑樹林下に生える多年草。茎は棍棒状で多肉質、前年までの茎が枯れずに残存する。葉はゆがんだ広楕円形で、鋭頭、長さ5～12cm、幅2.5～5cm。花茎は長さ15～30cm、6～7月に暗紫色の花を5～10個、まばらに総状につける。本州(福島県以南)・四国・九州・琉球、済州島・台湾に分布する。 ¹⁾	
現地調査における確認状況	確認状況	樹林環境において16地点152株が確認された。
	確認時期	R2 秋季、R2 早春季、R3 春季、R3 夏季、R6 春季
	確認位置	直接改変区域：— 直接改変区域近傍：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：16地点152株
生育環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生育環境は、樹林環境と考えられる。	
工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、掘削工事、トンネル工事の実施による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> 直接改変区域及び近傍には本種の生育地点は存在せず、事業実施区域周辺では16地点152株の生育が確認されたが、直接改変区域及びその近傍から十分な距離が確保されていることから、生育地の環境条件の変化はなく、生育環境の質的な変化は生じない。 本種の主な生育環境である樹林環境は直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。 確認された生育環境は、直接改変区域及びその近傍から十分な距離が確保されており、生育地点の直接改変は生じないことから、生育地の環境条件の変化はなく、工事の実施(建設機械の稼働、工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、掘削工事)に伴う生育環境への質的な変化は生じない。 本種の生育環境の周辺には地下水の変化に影響を及ぼすトンネル構造は計画されていないことから、掘削工事、トンネル工事の実施に伴う生育環境の質的な変化は生じない。 <p>以上より、本種の生育環境への影響はないと予測される。</p>	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> 直接改変区域及び近傍には本種の生育地点は存在せず、事業実施区域周辺では16地点152株の生育が確認されたが、確認された生育地点は、直接改変区域及びその近傍から十分な距離が確保されており、本種の生育環境の周辺には地下水の変化に影響を及ぼすトンネル構造は計画されていないことから、生育地の環境条件の変化はなく、道路の存在(地表式、嵩上式及び地下式)に伴う生育環境への質的な変化(水の濁り、土壌水分、日照等、地下水の変化)は生じない。 <p>以上より、本種の生育環境への影響はないと予測される。</p>	

1) 「改定新版 日本の野生植物1 ソテツ科～カヤツリグサ科」(平凡社, 2015)

表 11-12-17(11) 重要な植物の予測結果（チャボイ）

項目	内容	
生態	マツバイなどに似るが、海水の出入りする塩田などに生え、茎は長さ3～7cm、やや太くてやわらかく、秋に匍枝の先に小塊茎を生じて越冬する。小穂は卵形または長楕円形、やや扁平で長さ2～3mm、淡緑色、少数花をつける。果実は倒卵形で長さ1mm、淡いわら色で平滑。本州～九州にまれにあり、ヨーロッパ・シベリア・北アフリカ・北アメリカ・南アメリカに分布する。 ¹⁾	
現地調査における確認状況	確認状況	水辺環境において1地点500株が確認された
	確認時期	R6 春季
	確認位置	直接改変区域：－ 直接改変区域近傍：－ 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：1地点500株
生育環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生育環境は、水辺環境と考えられる。	
工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、掘削工事、トンネル工事の実施による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> 直接改変区域及び近傍には本種の生育地点は存在せず、事業実施区域周辺では1地点500株の生息が確認された。 本種の主な生育環境である水辺環境は直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。 確認された生育環境は、直接改変区域及びその近傍から十分な距離が確保されており、生育地点の直接改変は生じないことから、生育地の環境条件の変化はなく、工事の実施（建設機械の稼働、工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、掘削工事）に伴う生育環境への質的な変化は生じない。 本種の生育環境の周辺には地下水の変化に影響を及ぼすトンネル構造は計画されていないことから、掘削工事、トンネル工事の実施に伴う生育環境の質的な変化は生じない。 <p>以上より、本種の生育環境への影響はないと予測される。</p>	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> 直接改変区域及び近傍には本種の生育地点は存在せず、事業実施区域周辺では1地点500株の生息が確認されたが、確認された生育地点は、直接改変区域及びその近傍から十分な距離が確保されており、本種の生育環境の周辺には地下水の変化に影響を及ぼすトンネル構造は計画されていないことから、生育地の環境条件の変化はなく、道路の存在（地表式、嵩上式及び地下式）に伴う生育環境への質的な変化（水の濁り、土壌水分、日照等、地下水の変化）は生じない。 <p>以上より、本種の生育環境への影響はないと予測される。</p>	

1) 「改定新版 日本の野生植物1 ソテツ科～カヤツリグサ科」(平凡社, 2015)

表 11-12-17(12) 重要な植物の予測結果（ヒメコヌカグサ）

項目	内容	
生態	<p>多年草。高さ40～70cm。稈はやや多数束生し、細くて柔らかい。葉身は扁平で毛は無く、幅3～5mm。花期は5～6月。円錐花序の枝は半輪生で、長さ2.5～3mmの小穂をまばらに付ける。小花は苞穎と同長かより少し長く、小花が散ったのちも柄上に苞穎は残る。芒はない。</p> <p>日本固有種で本州（関東地方西）、四国、九州に分布する。県内では西部に分布する。</p> <p>丘陵地の林内や林縁の湿地に生育する。¹⁾</p>	
現地調査における確認状況	確認状況	樹林環境において2地点55株が確認された。
	確認時期	R3 春季
	確認位置	直接改変区域：— 直接改変区域近傍：— 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：2地点55株
生育環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生育環境は、樹林環境と考えられる。	
工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、掘削工事、トンネル工事の実施による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> 直接改変区域及び近傍には本種の生育地点は存在せず、事業実施区域周辺では2地点55株の生育が確認されたが、直接改変区域及びその近傍から十分な距離が確保されていることから、生育地の環境条件の変化はなく、生育環境の質的な変化は生じない。 本種の主な生育環境である樹林環境は直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。 確認された生育環境は、直接改変区域及びその近傍から十分な距離が確保されており、生育地点の直接改変は生じない。またトンネル部からも十分な距離が確保されていることから、生育地の環境条件の変化はなく、工事の実施（建設機械の稼働、工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、掘削工事）に伴う生育環境への質的な変化は生じない。 本種の生育環境の周辺には地下水の変化に影響を及ぼすトンネル構造は計画されていないことから、掘削工事、トンネル工事の実施に伴う生育環境の質的な変化は生じない。 <p>以上より、本種の生育環境への影響はないと予測される。</p>	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> 直接改変区域及び近傍には本種の生育地点は存在せず、事業実施区域周辺では2地点55株の生育が確認されたが、確認された生育地点は、直接改変区域及びその近傍から十分な距離が確保されており、本種の生育環境の周辺には地下水の変化に影響を及ぼすトンネルから十分な距離が確保されていることから、生育地の環境条件の変化はなく、道路の存在（地表式、嵩上式及び地下式）に伴う生育環境への質的な変化（水の濁り、土壌水分、日照等、地下水の変化）は生じない。 <p>以上より、本種の生育環境への影響はないと予測される。</p>	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2020—静岡県レッドデータブック〈植物・菌類編〉—」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、令和2年3月）

表 11-12-17(13) 重要な植物の予測結果（ヒメミソハギ）

項目	内容	
生態	<p>水田雑草であるが、耕作中の水田には少なく、丘陵地の休耕田に生育していることが多かった。もちろん休耕が長期化して大形の草本が繁茂すれば消失する。平野部の広い水田では見られない。</p> <p>1 年生草本。茎は直立して枝を分け、高さ10～50cm、4稜がある。葉は対生し、ほとんど無柄、葉身は広線形～狭長楕円形、長さ2.5～5cm、幅5～13mm、先端は鋭頭～やや鈍頭、基部は切形～やや心形で、両側に突起があり、辺縁には微小な鋸歯がある。花期は9～10月、花は葉腋に短い集散花序をつくって咲き、直径約1.5mm、花弁は4個で淡紅色、がくは鐘形で長さ1～1.5mmである。¹⁾</p>	
現地調査における確認状況	確認状況	耕作地及び緑の多い住宅地環境において1地点50株が確認された。
	確認時期	R6 秋季
	確認位置	直接改変区域：— 直接改変区域近傍：— 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：1地点50株
生育環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生育環境は、耕作地及び緑の多い住宅地環境と考えられる。	
工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、掘削工事、トンネル工事の実施による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> 直接改変区域及び近傍には本種の生育地点は存在せず、事業実施区域周辺では1地点50株の生育が確認されたが、直接改変区域及びその近傍から十分な距離が確保されていることから、生育地の環境条件の変化はなく、生育環境の質的な変化は生じない。 本種の主な生育環境である、耕作地及び緑の多い住宅地環境は直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。 確認された生育環境は、直接改変区域及びその近傍から十分な距離が確保されており、生育地点の直接改変は生じないことから、生育地の環境条件の変化はなく、工事の実施（建設機械の稼働、工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、掘削工事）に伴う生育環境への質的な変化は生じない。 本種の生育環境の周辺には地下水の変化に影響を及ぼすトンネル構造は計画されていないことから、掘削工事、トンネル工事の実施に伴う生育環境の質的な変化は生じない。 <p>以上より、本種の生育環境への影響はないと予測される。</p>	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> 直接改変区域及び近傍には本種の生育地点は存在せず、事業実施区域周辺では1地点50株の生育が確認されたが、確認された生育地点は、直接改変区域及びその近傍から十分な距離が確保されており、本種の生育環境の周辺には地下水の変化に影響を及ぼすトンネル構造は計画されていないことから、生育地の環境条件の変化はなく、道路の存在（地表式、嵩上式及び地下式）に伴う生育環境への質的な変化（水の濁り、土壌水分、日照等、地下水の変化）は生じない。 <p>以上より、本種の生育環境への影響はないと予測される。</p>	

1) 「レッドデータブックあいち2020—植物編—」（愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月）

表 11-12-17(14) 重要な植物の予測結果（ウスゲチョウジタデ）

項目	内容	
生態	一年草。高さ15～100cm。茎は直立する。葉は互生し、短柄があり、全縁。長さ7～10cm。花期は8～10月。花は黄色、花弁、ガク片は5個ずつ。花床に白毛が密生する。国内では本州（関東地方以西）、四国、九州、琉球に分布。生育環境は、湿地と水田、水路などである。 ¹⁾	
現地調査における確認状況	確認状況	耕作地及び緑の多い住宅地環境において10地点251株が確認された。
	確認時期	R6 秋季
	確認位置	直接改変区域：－ 直接改変区域近傍：－ 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：10地点251株
生育環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生育環境は、耕作地及び緑の多い住宅地環境と考えられる。	
工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、掘削工事、トンネル工事の実施による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域及び近傍には本種の生育地点は存在せず、事業実施区域周辺では10地点251株の生育が確認されたが、直接改変区域及びその近傍から十分な距離が確保されていることから、生育地の環境条件の変化はなく、生育環境の質的な変化は生じない。 ・本種の主な生育環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境は直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・確認された生育環境は、直接改変区域及びその近傍から十分な距離が確保されており、生育地点の直接改変は生じないことから、生育地の環境条件の変化はなく、工事の実施（建設機械の稼働、工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、掘削工事）に伴う生育環境への質的な変化は生じない。 ・本種の生育環境の周辺には地下水の変化に影響を及ぼすトンネル構造は計画されていないことから、掘削工事、トンネル工事の実施に伴う生育環境の質的な変化は生じない。 <p>以上より、本種の生育環境への影響はないと予測される。</p>	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域及び近傍には本種の生育地点は存在せず、事業実施区域周辺では10地点251株の生育が確認されたが、確認された生育地点は、直接改変区域及びその近傍から十分な距離が確保されており、本種の生育環境の周辺には地下水の変化に影響を及ぼすトンネル構造は計画されていないことから、生育地の環境条件の変化はなく、道路の存在（地表式、嵩上式及び地下式）に伴う生育環境への質的な変化（水の濁り、土壌水分、日照等、地下水の変化）は生じない。 <p>以上より、本種の生育環境への影響はないと予測される。</p>	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2020－静岡県レッドデータブック〈植物・菌類編〉－」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、令和2年3月）

表 11-12-17(15) 重要な植物の予測結果 (ハマボウ)

項目	内容	
生態	<p>落葉性の低木または小高木。枝はよく分枝し、高さ2～4mになる。葉は互生し、長さ1～2cmの柄があり、葉身は円形～広卵形、長さ4～7cm、幅3～6cm、先端は鋭頭、基部は円形またはやや心形、葉質は厚く、辺縁には細かい鋸歯があり、裏面は星状毛が密生して灰白色となる。花期は7～8月、花は枝の上部の葉腋に1個ずつつき、淡黄色で中心部は暗赤色、直径約5cm、花弁は5枚で倒卵形、先は円形で斜開し、長さ4～5cmである。果実は卵形で長さ約3cm、褐色の毛が密生する。</p> <p>本種は海流により種子が散布されるので、多少攪乱された場所でも塩湿地状態が維持されれば定着・生育できる。¹⁾</p>	
現地調査における確認状況	確認状況	塩性湿地環境(水辺環境隣接)、耕作地及び緑の多い住宅地環境(水辺環境隣接)、樹林環境(水辺環境隣接)において3地点13株が確認された。
	確認時期	R2 秋季、R3 夏季、R6 春季、R6 夏季
	確認位置	直接改変区域：— 直接改変区域近傍：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：3地点13株
生育環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生育環境は、主に水辺環境と考えられる。	
工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、掘削工事、トンネル工事の実施による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> 直接改変区域及び近傍には本種の生育地点は存在せず、事業実施区域周辺では3地点13株の生育が確認されたが、直接改変区域及びその近傍から十分な距離が確保されていることから、生育地の環境条件の変化はなく、生育環境の質的な変化は生じない。 本種の主な生育環境である水辺環境は直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。 確認された生育環境は、直接改変区域及びその近傍から十分な距離が確保されており、生育地点の直接改変は生じないことから、生育地の環境条件の変化はなく、工事の実施(建設機械の稼働、工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、掘削工事)に伴う生育環境への質的な変化は生じない。 本種の生育環境の周辺には地下水の変化に影響を及ぼすトンネル構造は計画されていないことから、掘削工事、トンネル工事の実施に伴う生育環境の質的な変化は生じない。 <p>以上より、本種の生育環境への影響はないと予測される。</p>	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> 直接改変区域及び近傍には本種の生育地点は存在せず、事業実施区域周辺では3地点13株の生育が確認されたが、確認された生育地点は、直接改変区域及びその近傍から十分な距離が確保されており、本種の生育環境の周辺には地下水の変化に影響を及ぼすトンネル構造は計画されていないことから、生育地の環境条件の変化はなく、道路の存在(地表式、嵩上式及び地下式)に伴う生育環境への質的な変化(水の濁り、土壌水分、日照等、地下水の変化)は生じない。 <p>以上より、本種の生育環境への影響はないと予測される。</p>	

1) 「レッドデータブックあいち2020—植物編—」(愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月)

表 11-12-17(16) 重要な植物の予測結果(ハマサジ)

項目	内容	
生態	<p>越年生草本。葉は束生し、葉身は長楕円状へら形、長さ8~17cm、幅1.5~3cm、先端は鈍頭またはややとがり、下部は次第に狭まって柄状となり、質は厚く、辺縁は全縁である。花期は9~11月、株の中央から高さ30~50cmの花茎を伸ばし、よく分枝して、多数の小穂からなる円錐状の花序をつくる。小穂基部の苞は長さ2~3mmで、鋭頭である。小穂は1個の正常花と1個の不熟花からなり、がくは筒型で長さ5~6mm、浅く5裂し、白色、花冠はがくよりやや長く深く5裂し、上部は黄色である。果実は紡錘形で、長さ約2.5mmである。</p> <p>三河湾には点在しており、比較的まとまった群落もあるが、それでも埋め立て等による塩湿地の破壊に伴い、過去に比べれば相当減少している。伊勢湾では、三重県側にはあるが、愛知県側は生育できそうな場所がほとんど残っていない¹⁾</p>	
現地調査における確認状況	確認状況	水辺環境において13地点423株が確認された。
	確認時期	R2 秋季、R3 春季、R3 夏季、R3 秋季、R4 夏季、R6 春季、R6 夏季
	確認位置	直接改変区域：— 直接改変区域近傍：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：13地点423株
生育環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生育環境は、水辺環境と考えられる。	
工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、掘削工事、トンネル工事の実施による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> 直接改変区域及び近傍には本種の生育地点は存在せず、事業実施区域周辺では13地点423株の生育が確認されたが、直接改変区域及びその近傍から十分な距離が確保されていることから、生育地の環境条件の変化はなく、生育環境の質的な変化は生じない。 本種の主な生育環境である水辺環境は直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。 確認された生育環境は、直接改変区域及びその近傍から十分な距離が確保されており、生育地点の直接改変は生じないことから、生育地の環境条件の変化はなく、工事の実施(建設機械の稼働、工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、掘削工事)に伴う生育環境への質的な変化は生じない。 本種の生育環境の周辺には地下水の変化に影響を及ぼすトンネル構造は計画されていないことから、掘削工事、トンネル工事の実施に伴う生育環境の質的な変化は生じない。 <p>以上より、本種の生育環境への影響はないと予測される。</p>	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> 直接改変区域及び近傍には本種の生育地点は存在せず、事業実施区域周辺では13地点423株の生育が確認されたが、確認された生育地点は、直接改変区域及びその近傍から十分な距離が確保されており、本種の生育環境の周辺には地下水の変化に影響を及ぼすトンネル構造は計画されていないことから、生育地の環境条件の変化はなく、道路の存在(地表式、嵩上式及び地下式)に伴う生育環境への質的な変化(水の濁り、土壌水分、日照等の変化)は生じない。 <p>以上より、本種の生育環境への影響はないと予測される。</p>	

1) 「レッドデータブックあいち2020-植物編-」(愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月)

表 11-12-17(17) 重要な植物の予測結果（ホソバハマアカザ）

項目	内容	
生態	海岸の砂地に生える一年草。ハマアカザにやや似ているが、葉は細長く、長披針形～長線形、縁は前縁か多少波状の歯牙があり、深緑色、長さ2～10cm、幅1.5～15mm。花期は8～10月。雌花の小苞は菱状三角形、先は鋭形、基部は広いくさび形、ときに両面に1対の突起物を出し、3脈があり、長さ3～4mm。種子は円形、黒色で光沢があり、径1.2～1.5mm。果期はハマアカザより遅い。南千島・北海道～九州、アジア北東部に分布する。 ¹⁾	
現地調査における確認状況	確認状況	水辺環境において18地点782株が確認された。
	確認時期	R3 夏季、R3 秋季、R4 夏季、R6 春季、R6 夏季
	確認位置	直接改変区域：－ 直接改変区域近傍：－ 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：18地点782株
生育環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生育環境は、水辺環境と考えられる。	
工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、掘削工事、トンネル工事の実施による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> 直接改変区域及び近傍には本種の生育地点は存在せず、事業実施区域周辺では18地点782株の生育が確認されたが、直接改変区域及びその近傍から十分な距離が確保されていることから、生育地の環境条件の変化はなく、生育環境の質的な変化は生じない。 本種の主な生育環境である水辺環境は直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。 確認された生育環境は、直接改変区域及びその近傍から十分な距離が確保されており、生育地点の直接改変は生じないことから、生育地の環境条件の変化はなく、工事の実施（建設機械の稼働、工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、掘削工事）に伴う生育環境への質的な変化は生じない。 本種の生育環境の周辺には地下水の変化に影響を及ぼすトンネル構造は計画されていないことから、掘削工事、トンネル工事の実施に伴う生育環境の質的な変化は生じない。 <p>以上より、本種の生育環境への影響はないと予測される。</p>	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> 直接改変区域及び近傍には本種の生育地点は存在せず、事業実施区域周辺では18地点782株の生育が確認されたが、確認された生育地点は、直接改変区域及びその近傍から十分な距離が確保されており、本種の生育環境の周辺には地下水の変化に影響を及ぼすトンネル構造は計画されていないことから、生育地の環境条件の変化はなく、道路の存在（地表式、嵩上式及び地下式）に伴う生育環境への質的な変化（水の濁り、土壌水分、日照等、地下水の変化）は生じない。 <p>以上より、本種の生育環境への影響はないと予測される。</p>	

1) 「改定新版 日本の野生植物4 アオイ科～キョウチクトウ科」(平凡社, 2017)

表 11-12-17(18) 重要な植物の予測結果（ハマアカザ）

項目	内容	
生態	<p>海浜の塩湿地や河口部の砂地などに生育する。</p> <p>1 年生草本。茎は斜上または直立して分枝し、高さ 40～60cm になる。葉は互生し、有柄、葉身は三角状卵形～長卵形、長さ 2～8cm、幅 2～4.5cm、肉質、先端は鋭頭か鈍頭、基部はくさび形、辺縁には通常ふぞろいな歯牙がある。上部の葉は次第に狭く小さくなり、全縁になる。花期は 8～10 月、花は密集してかたまり、それが穂状につく。雌花の苞は果時に大きくなり、卵形～三角形、長さ 6～11mm、幅 5～9mm になる。¹⁾</p>	
現地調査における 確認状況	確認状況	水辺環境において 1 地点 20 株が確認された。
	確認時期	R6 夏季
	確認位置	直接改変区域：— 直接改変区域近傍：— 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：1 地点 20 株
生育環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生育環境は、水辺環境と考えられる。	
工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、掘削工事、トンネル工事の実施による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域及び近傍には本種の生育地点は存在せず、事業実施区域周辺では 1 地点 20 株の生育が確認されたが、直接改変区域及びその近傍から十分な距離が確保されていることから、生育地の環境条件の変化はなく、生育環境の質的な変化は生じない。 ・本種の主な生育環境である水辺環境は直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。 ・確認された生育環境は、直接改変区域及びその近傍から十分な距離が確保されており、生育地点の直接改変は生じないことから、生育地の環境条件の変化はなく、工事の実施（建設機械の稼働、工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、掘削工事）に伴う生育環境への質的な変化は生じない。 ・本種の生育環境の周辺には地下水の変化に影響を及ぼすトンネル構造は計画されていないことから、掘削工事、トンネル工事の実施に伴う生育環境の質的な変化は生じない。 <p>以上より、本種の生育環境への影響はないと予測される。</p>	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・直接改変区域及び近傍には本種の生育地点は存在せず、事業実施区域周辺では 1 地点 20 株の生育が確認されたが、確認された生育地点は、直接改変区域及びその近傍から十分な距離が確保されており、本種の生育環境の周辺には地下水の変化に影響を及ぼすトンネル構造は計画されていないことから、生育地の環境条件の変化はなく、道路の存在（地表式、嵩上式及び地下式）に伴う生育環境への質的な変化（水の濁り、土壌水分、日照等、地下水の変化）は生じない。 <p>以上より、本種の生育環境への影響はないと予測される。</p>	

1) 「レッドデータブックあいち2020—植物編—」（愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月）

表 11-12-17(19) 重要な植物の予測結果（ハママツナ）

項目	内容	
生態	<p>本州（宮城県以南）、四国、九州、沖縄に分布、満潮時に海水が植物体を没する潮間帯の、波が穏やかな入り江や河口の塩湿地に生育する。</p> <p>一年草。高さ20～60cm。茎は分枝し、葉は、肉質の線形で、長さ1～3cm、幅1～2mm。花期は8～9月。花柄は葉に合着しない。花は、上部の葉腋に数個つく。茎や葉は秋に紅葉する。¹⁾</p>	
現地調査における確認状況	確認状況	水辺環境、塩性湿地環境において8地点413株が確認された。
	確認時期	R2 秋季、R3 夏季、R4 夏季、R6 春季
	確認位置	直接改変区域：— 直接改変区域近傍：— 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：8地点413株
生育環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生育環境は、水辺環境、塩性湿地環境と考えられる。	
工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、掘削工事、トンネル工事の実施による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> 直接改変区域及び近傍には本種の生育地点は存在せず、事業実施区域周辺では8地点413株の生育が確認されたが、直接改変区域及びその近傍から十分な距離が確保されていることから、生育地の環境条件の変化はなく、生育環境の質的な変化は生じない。 本種の主な生育環境である水辺環境、塩性湿地環境は直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。 確認された生育環境は、直接改変区域及びその近傍から十分な距離が確保されており、生育地点の直接改変は生じないことから、生育地の環境条件の変化はなく、工事の実施（建設機械の稼働、工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、掘削工事）に伴う生育環境への質的な変化は生じない。 本種の生育環境の周辺には地下水の変化に影響を及ぼすトンネル構造は計画されていないことから、掘削工事、トンネル工事の実施に伴う生育環境の質的な変化は生じない。 <p>以上より、本種の生育環境への影響はないと予測される。</p>	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> 直接改変区域及び近傍には本種の生育地点は存在せず、事業実施区域周辺では8地点413株の生育が確認されたが、確認された生育地点は、直接改変区域及びその近傍から十分な距離が確保されており、本種の生育環境の周辺には地下水の変化に影響を及ぼすトンネル構造は計画されていないことから、生育地の環境条件の変化はなく、道路の存在（地表式、嵩上式及び地下式）に伴う生育環境への質的な変化（水の濁り、土壌水分、日照等の変化）は生じない。 <p>以上より、本種の生育環境への影響はないと予測される。</p>	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2020—静岡県レッドデータブック〈植物・菌類編〉—」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、令和2年3月）

表 11-12-17(20) 重要な植物の予測結果（ノジトラノオ）

項目	内容	
生態	<p>日当たりのよいやや湿った草地に生育する。愛知県の生育地は、いずれも河川や水路のわきの土手である。</p> <p>多年生草本。横にはう地下茎がある。地上茎は高さ70～100cm、ふつう分枝せず、短い毛がやや密に生える。葉は互生し、葉身は倒披針形～線状楕円形、長さ6～10cm、幅8～15mm、先端は鈍頭～鋭頭、基部は狭まってほとんど無柄、辺縁は全縁である。花期は6～7月、茎の先端に上部が傾いた総状花序を伸ばし、上側に多数の花をつける。花は長さ4～7mmの柄があり、花冠は白色で5裂し、直径8～10mm、裂片は狭楕円形である。¹⁾</p>	
現地調査における確認状況	確認状況	樹林環境において1地点50株が確認された。
	確認時期	R4 初夏季
	確認位置	直接改変区域：— 直接改変区域近傍：— 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：1地点50株
生育環境の分布状況	<p>本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生育環境は、耕作地及び緑の多い住宅地環境に隣接した樹林環境と考えられる。</p>	
工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、掘削工事、トンネル工事の実施による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> 直接改変区域及び近傍には本種の生育地点は存在せず、事業実施区域周辺では1地点50株の生育が確認されたが、直接改変区域及びその近傍から十分な距離が確保されていることから、生育地の環境条件の変化はなく、生育環境の質的な変化は生じない。 本種の主な生育環境である樹林環境は直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。 確認された生育環境は、直接改変区域及びその近傍から十分な距離が確保されており、生育地点の直接改変は生じないことから、生育地の環境条件の変化はなく、工事の実施（建設機械の稼働、工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、掘削工事）に伴う生育環境への質的な変化は生じない。 本種の生育環境の周辺には地下水の変化に影響を及ぼすトンネル構造は計画されていないことから、掘削工事、トンネル工事の実施に伴う生育環境の質的な変化は生じない。 <p>以上より、本種の生育環境への影響はないと予測される。</p>	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> 直接改変区域及び近傍には本種の生育地点は存在せず、事業実施区域周辺では1地点50株の生育が確認されたが、確認された生育地点は、直接改変区域及びその近傍から十分な距離が確保されており、本種の生育環境の周辺には地下水の変化に影響を及ぼすトンネル構造は計画されていないことから、生育地の環境条件の変化はなく、道路の存在（地表式、嵩上式及び地下式）に伴う生育環境への質的な変化（水の濁り、土壌水分、日照等、地下水の変化）は生じない。 <p>以上より、本種の生育環境への影響はないと予測される。</p>	

1) 「レッドデータブックあいち2020—植物編—」（愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月）

表 11-12-17(21) 重要な植物の予測結果(ナガボナツハゼ)

項目	内容	
生態	<p>やせた低山地の疎林の林縁などに生育している。「湿地に生える」と記述されている文献も少なくないが、湿地性の植物ではない。</p> <p>落葉性の低木。よく分枝し、高さ30~150cmになる。葉は互生し、短い柄があり、葉身は楕円形~卵状楕円形で、長さ3~7cm、幅2~4cm、先端は鋭頭、辺縁は全縁で鋸歯はなく、表面の主脈上に毛が散生するほかは無毛である。花期は5月、若枝の先に長さ5~10cmの総状花序を伸ばし、多数の下向きの花をつける。花冠は鐘形で先は浅く5裂し、長さ約5mm、白色で5本の赤色の縦条がある。果実は球形で黒熟し、直径5~6mmである。¹⁾</p>	
現地調査における確認状況	確認状況	樹林環境において1地点1株が確認された。
	確認時期	R3 春季、R3 夏季
	確認位置	直接改変区域：— 直接改変区域近傍：— 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：1地点1株
生育環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生育環境は、樹林環境と考えられる。	
工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、掘削工事、トンネル工事の実施による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> 直接改変区域及び近傍には本種の生育地点は存在せず、事業実施区域周辺では1地点1株の生育が確認されたが、直接改変区域及びその近傍から十分な距離が確保されていることから、生育地の環境条件の変化はなく、生育環境の質的な変化は生じない。 本種の主な生育環境である樹林環境は直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。 確認された生育環境は、直接改変区域及びその近傍から十分な距離が確保されており、生育地点の直接改変は生じないことから、生育地の環境条件の変化はなく、工事の実施(建設機械の稼働、工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、掘削工事)に伴う生育環境への質的な変化は生じない。 本種の生育環境の周辺には地下水の変化に影響を及ぼすトンネル構造は計画されていないことから、掘削工事、トンネル工事の実施に伴う生育環境の質的な変化は生じない。 <p>以上より、本種の生育環境への影響はないと予測される。</p>	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> 直接改変区域及び近傍には本種の生育地点は存在せず、事業実施区域周辺では1地点1株の生育が確認されたが、確認された生育地点は、直接改変区域及びその近傍から十分な距離が確保されており、本種の生育環境の周辺には地下水の変化に影響を及ぼすトンネル構造は計画されていないことから、生育地の環境条件の変化はなく、道路の存在(地表式、嵩上式及び地下式)に伴う生育環境への質的な変化(水の濁り、土壌水分、日照等、地下水の変化)は生じない。 <p>以上より、本種の生育環境への影響はないと予測される。</p>	

1) 「レッドデータブックあいち2020-植物編-」(愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月)

表 11-12-17(22) 重要な植物の予測結果(カワヂシャ)

項目	内容	
生態	<p>本州(中部以西)、四国、九州、沖縄県、中国大陸、東南アジア、インドに分布。</p> <p>水田や川岸、水路などに生育する越年草。茎ははじめ匍匐から斜上し、のちに直立、高さ10~50cm、葉とともに無毛。葉は披針形から長楕円状披針形で、先はやや尖り、基部は円形で茎を抱き、長さ2.5~8cm、幅0.5~2.5cm。葉縁にはやや尖る鋸歯が並ぶ。花序は総状、長さ5~15cmで細く、ややまばらに15~50個の花を付ける。花冠はほぼ純白で皿状に広く開き、径3~4mm。蒴果は球形で先がわずかに凹み、長さ幅ともに2.5~3mm。花柱は宿存し長さ1~1.5mm、萼片から突出しない。種子は板状の楕円形で長さ0.5mm、幅0.4mm。¹⁾</p>	
現地調査における確認状況	確認状況	耕作地及び緑の多い住宅地環境において24地点736株が確認された。
	確認時期	R2 早春季、R3 春季、R4 初夏季、R6 春季、R6 早春季
	確認位置	直接改変区域：— 直接改変区域近傍：6地点130株 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：18地点606株
生育環境の分布状況	<p>本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生育環境は、耕作地及び緑の多い住宅地環境と考えられる。</p>	
工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、掘削工事、トンネル工事の実施による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> 直接改変区域には本種の生育地点は存在せず、近傍には6地点130株の生育地点が存在するが、本生育地点においては大規模な樹林伐採は予定されておらず、工事に伴う変化により生育環境の一部で生じる質的変化の程度は軽微であると想定される。 事業実施区域周辺では18地点606株の生育が確認されたが、直接改変区域及びその近傍から十分な距離が確保されていることから、生育地の環境条件の変化はなく、生育環境の質的な変化は生じない。 本種の主な生育環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境は直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。 周辺に残る生育環境の内、直接改変区域近傍及び周辺で確認された種については、直接改変区域から十分な距離が確保され、直接改変が生じないこと、また、その生育環境は大規模な樹林伐採は予定されていないことから、生育地の環境条件の変化はなく、工事の実施(建設機械の稼働、工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、掘削工事)に伴う生育環境への質的変化の程度は軽微であると想定される。 本種の生育環境の周辺には地下水の変化に影響を及ぼすトンネル構造は計画されていないことから、掘削工事、トンネル工事の実施に伴う生育環境の質的な変化は生じない。 <p>以上より、本種の生育環境への影響は極めて小さいと予測される。</p>	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> 直接改変区域に本種の生育地点は存在せず、近傍には6地点130株の生育地点が存在し、道路の存在に伴う変化により生育環境の一部で質的変化が生じる。 事業実施区域周辺では18地点606株の生育が確認されたが、事業実施区域周辺で確認された18地点606株の生育地点は、直接改変区域及びその近傍から十分な距離が確保されており、本種の生育環境の周辺には地下水の変化に影響を及ぼすトンネル構造は計画されていないことから、生育地の環境条件の変化はなく、道路の存在(地表式、嵩上式及び地下式)に伴う生育環境への質的な変化(水の濁り、土壤水分、日照等、地下水の変化)は生じない。 <p>以上より、本種の生育環境への影響は極めて小さいと予測される。</p>	

1) 「改定新版 日本の野生植物5 ヒルガオ科~スイカズラ科」(平凡社, 2017)

表 11-12-17(23) 重要な植物の予測結果（タニジャコウソウ）

項目	内容	
生態	<p>生育範囲は狭く、その中では点在するが、もちろどこにでもあるというものではない。遷移の進行や造林地の手入れ不足などにより、被陰されて衰退するおそれがある。園芸目的で採取されることもある。</p> <p>多年生草本。茎は下部が直立して上部は斜上し、高さ50～100cm、開出する粗い毛があり、多くは紅紫色をおびる。葉は対生し、長さ5～10mmの柄があり、葉身は広披針形または狭倒卵状長楕円形、長さ8～15cm、幅2.5～5cm、先端は鋭尖頭、基部は細まって耳状心形となり、質はやや薄く、両面の特に脈上に毛がある。花期は9～10月、花は上部の葉腋から出る長さ2～3cmの柄の先に1～3個つき、がくは花時で7～8mm、果時には球鐘形で長さ15～18mmとなる。花冠は紅紫色、長さ3.5～4cmである。¹⁾</p>	
現地調査における確認状況	確認状況	樹林環境において2地点8株が確認された。
	確認時期	R2 秋季
	確認位置	直接改変区域：— 直接改変区域近傍：— 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：2地点8株
生育環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生育環境は、樹林環境と考えられる。	
工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、掘削工事、トンネル工事の実施による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> 直接改変区域及び近傍には本種の生育地点は存在せず、事業実施区域周辺では2地点8株の生育が確認されたが、直接改変区域及びその近傍から十分な距離が確保されていることから、生育地の環境条件の変化はなく、生育環境の質的な変化は生じない。 本種の主な生育環境である樹林環境は直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。 確認された生育環境は、直接改変区域及びその近傍から十分な距離が確保されており、生育地点の直接改変は生じない。またトンネル部からも十分な距離が確保されていることから、生育地の環境条件の変化はなく、工事の実施（建設機械の稼働、工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、掘削工事）に伴う生育環境への質的な変化は生じない。 本種の生育環境の周辺には地下水の変化に影響を及ぼすトンネル構造は計画されていないことから、掘削工事、トンネル工事の実施に伴う生育環境の質的な変化は生じない。 <p>以上より、本種の生育環境への影響はないと予測される。</p>	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> 直接改変区域及び近傍には本種の生育地点は存在せず、事業実施区域周辺では2地点8株の生育が確認されたが、確認された生育地点は、直接改変区域及びその近傍から十分な距離が確保されており、本種の生育環境の周辺には地下水の変化に影響を及ぼすトンネル部から十分な距離が確保されていることから、生育地の環境条件の変化はなく、道路の存在（地表式、嵩上式及び地下式）に伴う生育環境への質的な変化（水の濁り、土壌水分、日照等、地下水の変化）は生じない。 <p>以上より、本種の生育環境への影響はないと予測される。</p>	

1) 「レッドデータブックあいち2020—植物編—」（愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月）

表 11-12-17(24) 重要な植物の予測結果(スズメノハコベ)

項目	内容	
生態	<p>水田に生育することが多いが、ため池や小水路の岸などに生育することもある。</p> <p>小型の1年生草本。茎は分枝してはい、長さ5~20cmになる。葉は対生し、無柄、葉身は線状披針形または狭長楕円形、長さ2~5mm、幅1~2mm、先端は鈍頭、辺縁は全縁である。花期は7~10月、花は葉腋に1個ずつつき、がくは筒状鐘形、先は浅く5裂する。花冠は淡紅色、筒状で長さ約2mm、先端は小さく5裂して開出する。果実は蒴果で長楕円形、長さ約1.2mm、がくに包まれる。¹⁾</p>	
現地調査における確認状況	確認状況	耕作地及び緑の多い住宅地環境、水辺環境において9地点237株が確認された。
	確認時期	R2 秋季、R4 秋季、R6 秋季
	確認位置	直接改変区域：2地点52株 直接改変区域近傍：1地点1株 事業実施区域周辺(直接改変区域外)：6地点184株
生育環境の分布状況	<p>本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生育環境は、耕作地及び緑の多い住宅地環境、水辺環境と考えられる。</p>	
工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、掘削工事、トンネル工事の実施による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> 直接改変区域には2地点52株の生育地点が存在し、工事の実施により生育地点の一部が消失・縮小する。また、直接改変区域近傍には1地点1株の生育地点が存在するが、本生育地点においては大規模な樹林伐採は予定されておらず、工事に伴う変化により生育環境の一部で生じる質的変化の程度は軽微であると想定される。 事業実施区域周辺では6地点184株の生育が確認されたが、直接改変区域及びその近傍から十分な距離が確保されていることから、生育地の環境条件の変化はなく、生育環境の質的な変化は生じない。 本種の主な生育環境である耕作地及び緑の多い住宅地環境、水辺環境は直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。 周辺に残る生育環境の内、直接改変区域近傍及び周辺については、大規模な樹林伐採は予定されていないことから、生育地の環境条件の変化はなく、工事の実施(建設機械の稼働、工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、掘削工事)に伴う生育環境への質的変化の程度は軽微であると想定される。 本種の生育環境の周辺には地下水の変化に影響を及ぼすトンネル構造は計画されていないことから、掘削工事、トンネル工事の実施に伴う生育環境の質的な変化は生じない。 <p>以上より、本種の生育環境への影響は極めて小さいと予測される。</p>	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> 直接改変区域には2地点52株の生育地点が存在し、道路の存在により生育地点の一部が消失・縮小する。また、直接改変区域近傍には1地点1株の生育地点が存在し、道路の存在に伴う光環境等の変化により生育環境の一部で生じる質的変化の程度は軽微であると想定される。 事業実施区域周辺では6地点184株の生育が確認されたが、事業実施区域周辺で確認された6地点184株の生育地点は、直接改変区域及びその近傍から十分な距離が確保されており、本種の生育環境の周辺には地下水の変化に影響を及ぼすトンネル構造は計画されていないことから、生育地の環境条件の変化はなく、道路の存在(地表式、嵩上式及び地下式)に伴う生育環境への質的な変化(水の濁り、土壌水分、日照等、地下水の変化)は生じない。 <p>以上より、本種の生育環境への影響は極めて小さいと予測される。</p>	

1) 「レッドデータブックあいち2020-植物編-」(愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月)

表 11-12-17(25) 重要な植物の予測結果（ウラギク）

項目	内容	
生態	北海道から九州までの太平洋岸に分布し、河口付近の塩湿地に生育する。一年草。高さ25～80cm。茎は無毛で分枝する。葉は披針形で長さ5～10cm。花期は9～11月。頭花は径2cmで舌状花は紫色である。冠毛は5～15mmに達する。瘦果は、狭長楕円形で扁平。長さ2.5～3mm。 ¹⁾	
現地調査における確認状況	確認状況	水辺環境において14地点835株が確認された。
	確認時期	R2 秋季、R3 夏季、R3 秋季、R6 春季、R6 夏季
	確認位置	直接改変区域：－ 直接改変区域近傍：1地点30株 事業実施区域周辺（直接改変区域外）：13地点805株
生育環境の分布状況	本種の生態及び現地調査による確認状況から、調査地域における本種の主な生育環境は、水辺環境と考えられる。	
工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、掘削工事、トンネル工事の実施による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> 直接改変区域に本種の生育地点は存在せず、近傍には1地点30株の生育地点が存在し、工事に伴う環境の変化により生育環境の一部で生じる質的变化の程度は軽微であると想定される。 事業実施区域周辺では13地点805株の生育が確認されたが、直接改変区域及びその近傍から十分な距離が確保されていることから、生育地の環境条件の変化はなく、生育環境の質的な変化は生じない。 本種の主な生育環境である水辺環境は直接改変により一部が消失・縮小するが、工事施工ヤードは直接改変区域内を極力利用すること、工事用道路は既存道路を極力利用することから、周辺には同様の環境が広く残される。 周辺に残る生育環境の内、直接改変区域近傍及び周辺で確認された種については、直接改変区域から十分な距離が確保され、直接改変が生じないこと、また、その生育環境は大規模な樹林伐採は予定されていないことから、生育地の環境条件の変化はなく、工事の実施（建設機械の稼働、工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、掘削工事）に伴う生育環境への質的变化の程度は軽微であると想定される。 本種の生育環境の周辺には地下水の変化に影響を及ぼすトンネル構造は計画されていないことから、掘削工事、トンネル工事の実施に伴う生育環境の質的な変化は生じない。 <p>以上より、本種の生育環境への影響は極めて小さいと予測される。</p>	
道路の存在による影響の予測	<ul style="list-style-type: none"> 直接改変区域に本種の生育地点は存在せず、近傍には1地点30株の生育地点が存在し、道路の存在に伴う環境の変化により生育環境の一部で質的变化が生じる。 事業実施区域周辺では13地点805株の生育が確認されたが、事業実施区域周辺で確認された13地点805株の生育地点は、直接改変区域及びその近傍から十分な距離が確保されており、本種の生育環境の周辺には地下水の変化に影響を及ぼすトンネル構造は計画されていないことから、生育地の環境条件の変化はなく、道路の存在（地表式、嵩上式及び地下式）に伴う生育環境への質的な変化（水の濁り、土壌水分、日照等、地下水の変化）は生じない。 <p>以上より、本種の生育環境への影響は極めて小さいと予測される。</p>	

1) 「まもりたい静岡県の野生生物2020－静岡県レッドデータブック〈植物・菌類編〉」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、令和2年3月）

(3) 環境保全措置の検討

1) 環境保全措置の検討の状況

予測の結果、工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、掘削工事、トンネル工事の実施及び道路（地表式、嵩上式及び地下式）の存在に係る植物の影響は極めて小さいと予測されることから、環境保全措置の検討は行わないこととしました。

(4) 評価

1) 評価の手法

① 回避又は低減に係る評価

工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、掘削工事、トンネル工事の実施及び道路（地表式、嵩上式及び地下式）の存在に係る植物の影響が、事業者により実行可能な範囲内でできる限り回避され、又は低減されており、必要に応じその他の方法により環境の保全についての配慮が適正になされているかどうかについて、見解を明らかにすることにより行いました。

2) 評価の結果

① 回避又は低減に係る評価

対象路線の検討にあたっては、集落・市街地、重要な地形及び地質、動物や植物の重要な種、景観の保全上重要な箇所等への影響をできる限り回避する計画としています。

一部の範囲においては、トンネル工事の実施に伴う湧水量や河川流量の減少が懸念されますが、一部の河川等が影響を受けても、同様の水辺の生育環境は広く残存することから影響は小さいと予測されました。

以下の事項に配慮することとしており、重要な植物種及び群落への影響は極めて小さいと予測されました。

[環境配慮事項]

- ・工事に用いる建設機械は、「特定特殊自動車排出ガスの規制等に関する法律」（ただし、法の適用除外の機種については「排出ガス対策型建設機械指定制度」の二次基準以降）に適合した建設機械、低騒音・低振動型建設機械を基本とし、環境負荷が小さい建設機械や工法を積極的に導入することで、排出ガスの発生や騒音・振動等の低減に努めます。
- ・工事従事者への講習・指導として、工事区域外への立ち入りを制限することにより、人為的な攪乱による動植物への影響の低減に努めます。
- ・建設発生土の仮置きやトンネル排水等、工事の実施に伴って発生する濁水の影響を低減するために、沈砂池等の濁水処理施設で処理した後に公共用水域に放流することにより、水質への影響の低減に努めます。

- ・裸地に転圧やシート等による被覆を行うとともに、法面は早期緑化に努め、裸地状態の短期化・縮小化を図ることで、降雨による濁水の発生を極力抑えます。
- ・河川内での工事を行う場合には、仮締切工法などを採用したうえで、工区内にてコンクリートを十分乾燥させ、河川下流側のpHに異常が生じないことを確認するなど、水質、動物、植物、生態系への影響の低減に努めます。

これらのことから、工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、掘削工事、トンネル工事の実施及び道路（地表式、嵩上式及び地下式）の存在に係る植物（重要な種及び群落）の影響は、事業者により実行可能な範囲内でできる限り回避又は低減されていると評価します。